

ウィズ コロナ時代の九州宿泊施設動向 (別冊その1)

2021年12月21日



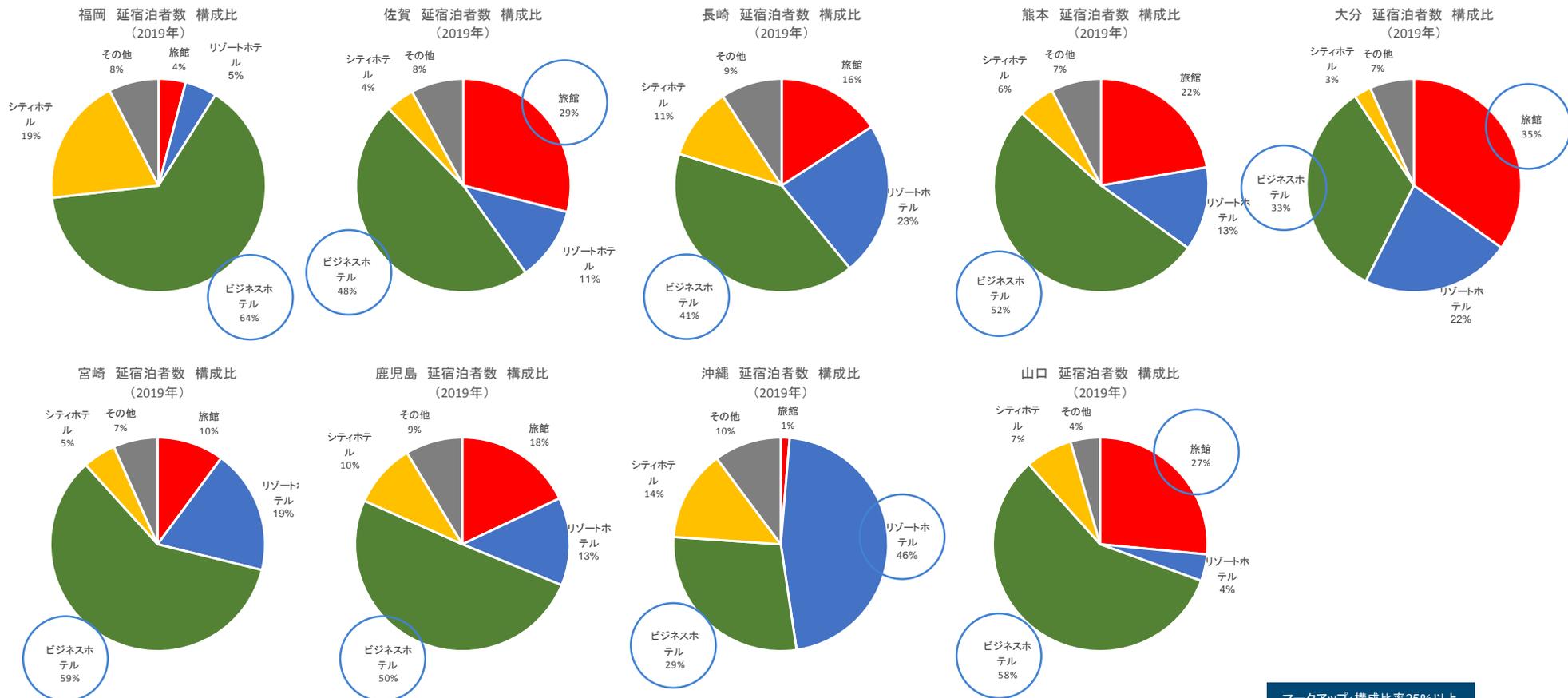
参考資料 1 マクロ動向分析 その他

参照データ：
マクロデータ（延宿泊者数）：観光庁_宿泊旅行統計調査他

参考資料1 マクロ動向分析 その他

県別の延宿泊者数 宿泊施設タイプ別

- ビジネスホテルでの宿泊者数が各県共通で比重が大きい。
- 旅館は佐賀・大分・山口で、リゾートホテルは沖縄で、相対的に比重が大きい。



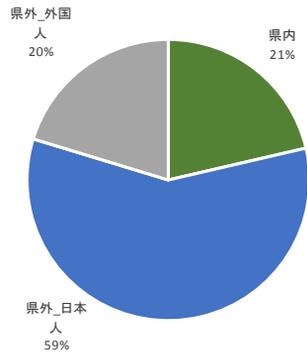
マークアップ: 構成比率25%以上

参考資料1 マクロ動向分析 その他

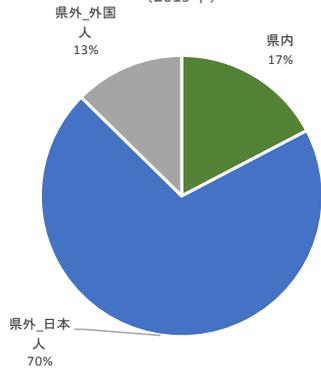
県別の延宿泊者数 宿泊者居住地別

➤ 県内利用は概ね2～3割程度。宮崎・鹿児島県の県内利用者の比率が相対的に高いのは、隣接県の人口が小さいことが要因として推測される。

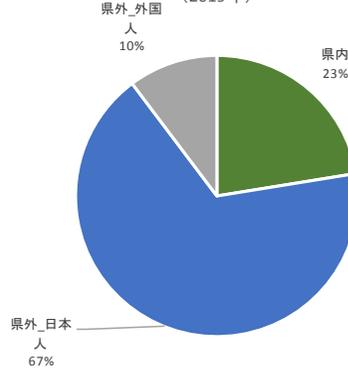
福岡 延宿泊者数 構成比
(2019年)



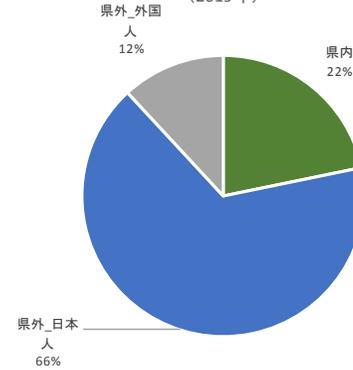
佐賀 延宿泊者数 構成比
(2019年)



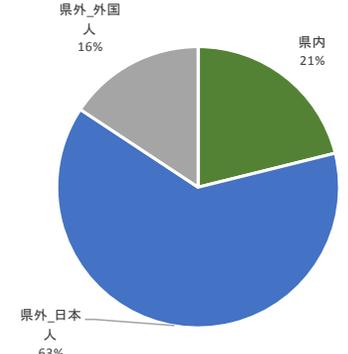
長崎 延宿泊者数 構成比
(2019年)



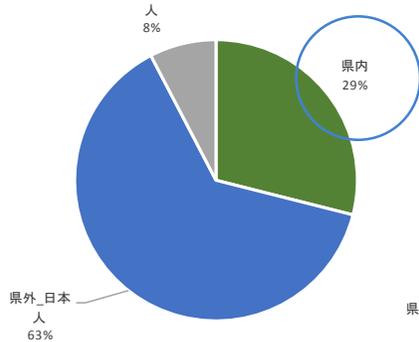
熊本 延宿泊者数 構成比
(2019年)



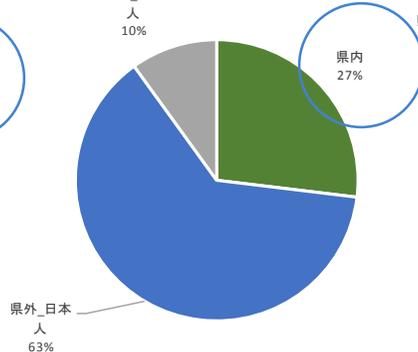
大分 延宿泊者数 構成比
(2019年)



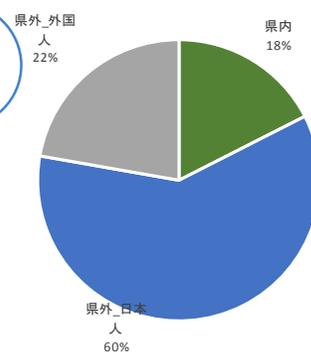
宮崎 延宿泊者数 構成比
(2019年)



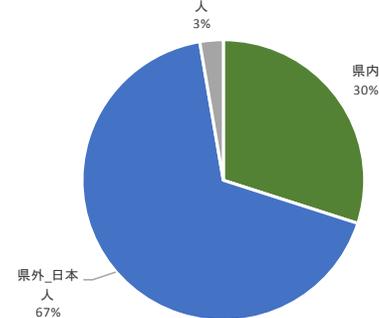
鹿児島 延宿泊者数 構成比
(2019年)



沖縄 延宿泊者数 構成比
(2019年)



山口 延宿泊者数 構成比
(2019年)

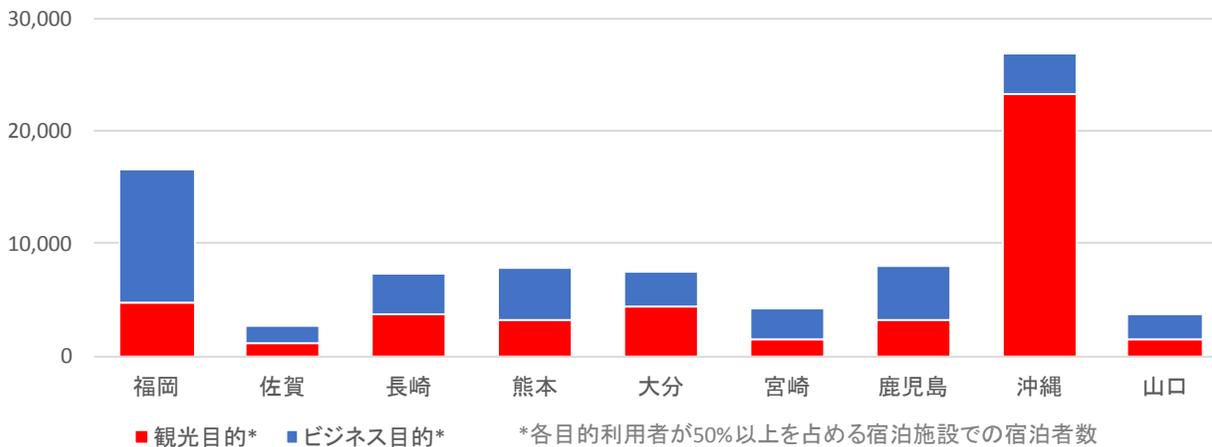


参考資料1 マクロ動向分析 その他

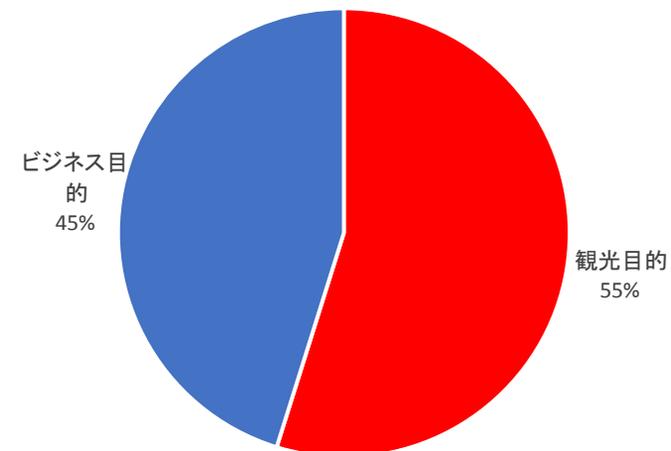
県別の延宿泊者数 目的別

- 全体での目的別延宿泊者数は、観光目的55%、ビジネス目的45%、と略半分に分かれている。
- そのうち、観光目的は沖縄が、ビジネス目的は福岡が牽引。

2019年 延宿泊者数(千人泊)



九州・沖縄・山口計 延宿泊者数 構成比 (2019年)



延宿泊者数(千人泊)	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	山口
全体	16,696	2,685	7,251	7,802	7,533	4,202	7,962	27,039	3,694
観光目的*	4,663	1,137	3,655	3,149	4,471	1,419	3,240	23,391	1,393
ビジネス目的*	12,034	1,547	3,596	4,652	3,063	2,783	4,722	3,648	2,302

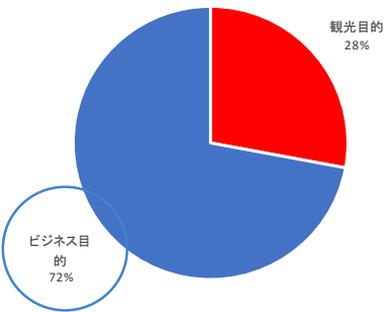
*各目的利用者が50%以上を占める宿泊施設での宿泊者数

参考資料1 マクロ動向分析 その他

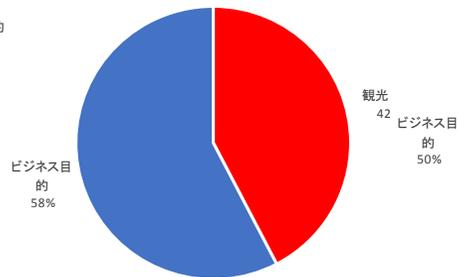
県別の延宿泊者数 目的別

➤ 県別の宿泊者構成は以下の通り。福岡・熊本・宮崎・山口はビジネス目的利用の比率が高く、他方沖縄は観光目的の比率が高い。

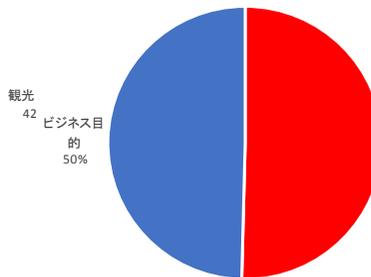
福岡 延宿泊者数 構成比
(2019年)



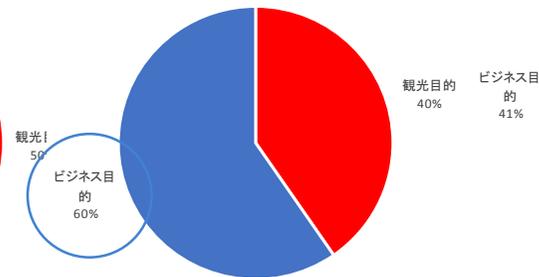
佐賀 延宿泊者数 構成比
(2019年)



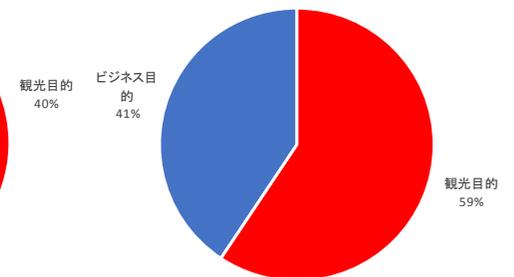
長崎 延宿泊者数 構成比
(2019年)



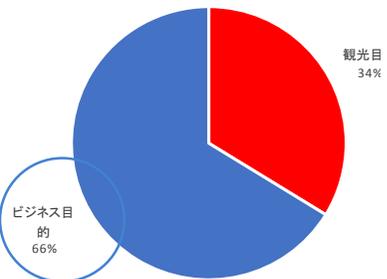
熊本 延宿泊者数 構成比
(2019年)



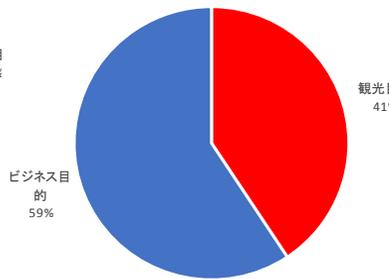
大分 延宿泊者数 構成比
(2019年)



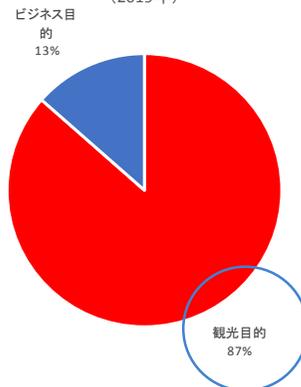
宮崎 延宿泊者数 構成比
(2019年)



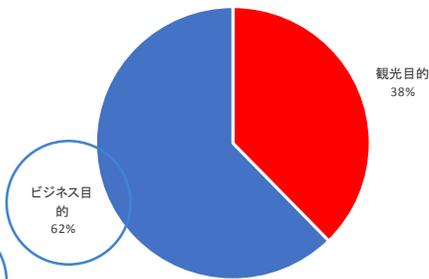
鹿児島 延宿泊者数 構成比
(2019年)



沖縄 延宿泊者数 構成比
(2019年)



山口 延宿泊者数 構成比
(2019年)



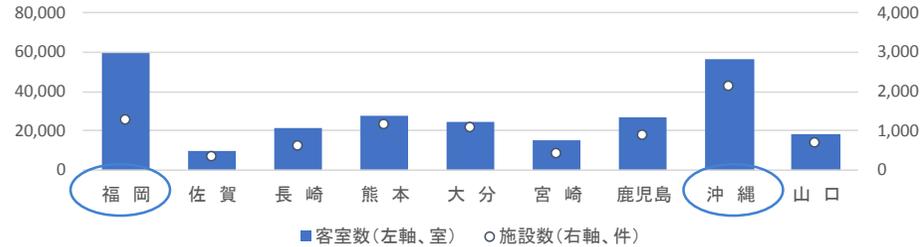
マークアップ: 構成比率60%以上

参考資料1 マクロ動向分析 その他

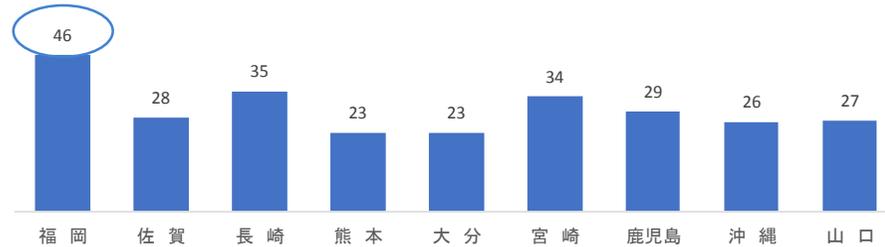
県別の宿泊施設

- 県別の客室供給数を比較すると、福岡・沖縄が約6万室程度と存在感を示している。
- 1施設当たりの客室数では福岡が46室と大きい。大規模なシティホテルが多く点在していることが要因と考えられる。
- 1室当たりの年間延宿泊者を比較すると、沖縄が476人と他県の1.5倍以上高い。1室当たり複数人で宿泊できるリゾートホテル・シティホテルタイプの利用割合が高いことが背景として考えられる。

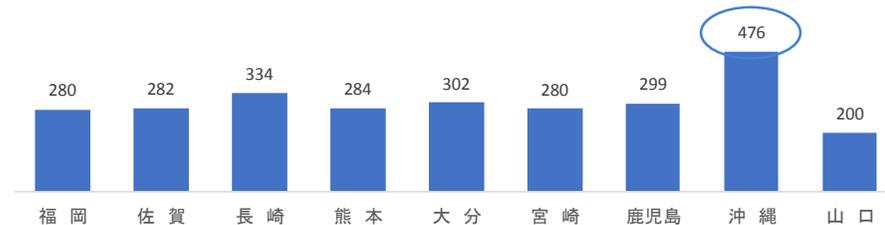
宿泊施設数及び客室数(19年度末)



1施設当平均客室数(19年度末)



1室当平均年間宿泊者数*
(19年度末) *延宿泊者数÷客室数



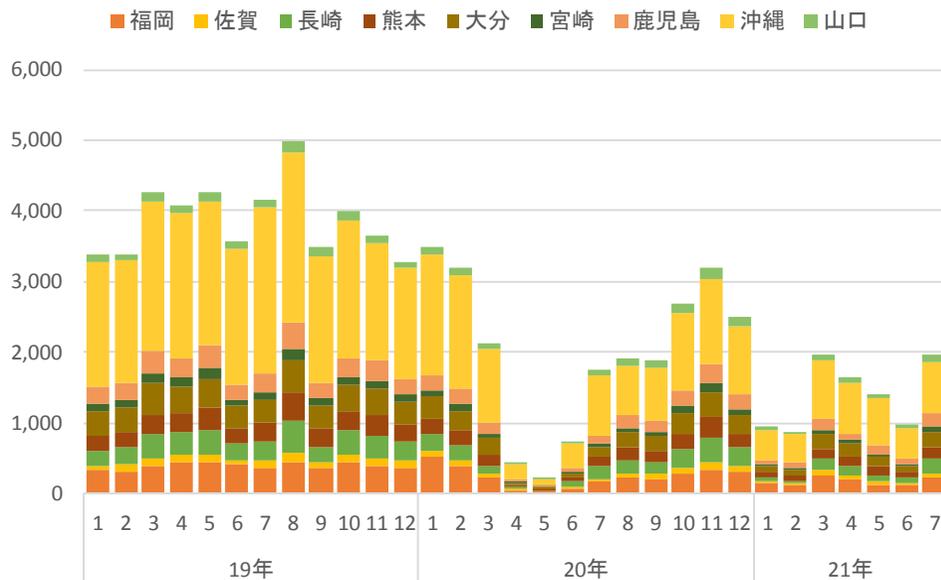
出所:厚生労働省_衛生行政報告例、観光庁_宿泊旅行統計調査よりJERI作成

参考資料1 マクロ動向分析 その他

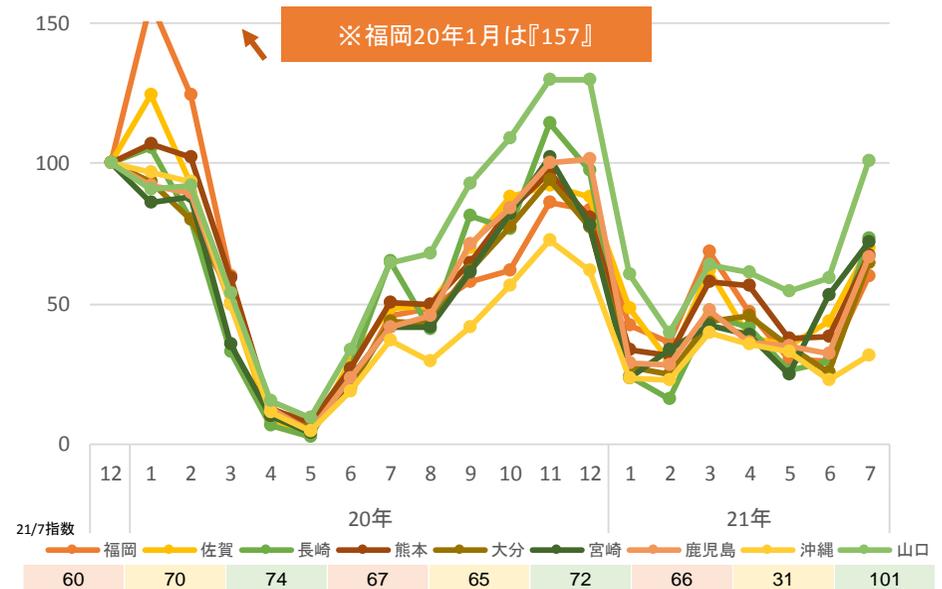
観光目的延宿泊数 月次推移

- ▶ 観光目的の宿泊数はコロナ蔓延の状況次第で大きく変動する傾向にある。
- ▶ GOTOキャンペーン時には、従来相対的に宿泊客が少なかった山口などがマイクロツーリズムなどの需要を取り込み大きく伸長。他方、飛行機での移動を要する沖縄については回復が鈍い傾向にあった。
- ▶ 21年以降はGOTOキャンペーンによる宿泊需要が一巡し、概ねコロナ前の3～7割程度で推移。

九州・沖縄・山口計 観光目的延宿泊数推移(千人泊)



九州・沖縄・山口計 観光目的指数推移 (19年同月=100)

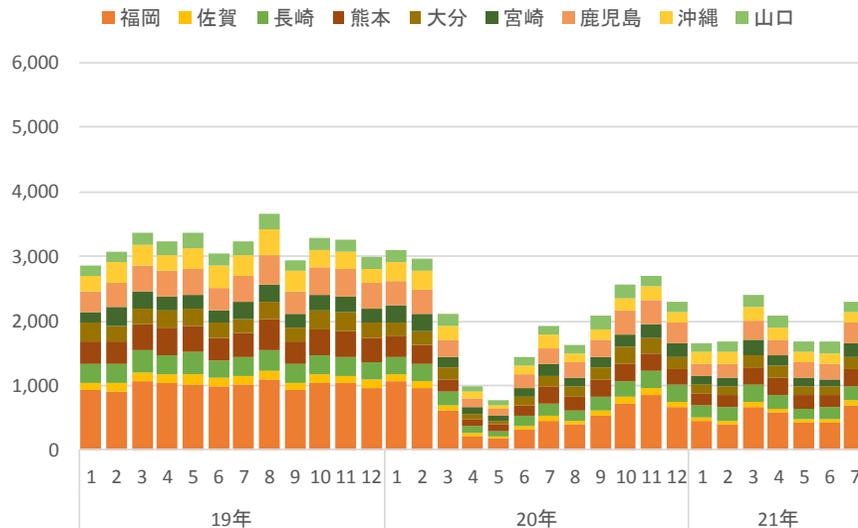


参考資料1 マクロ動向分析 その他

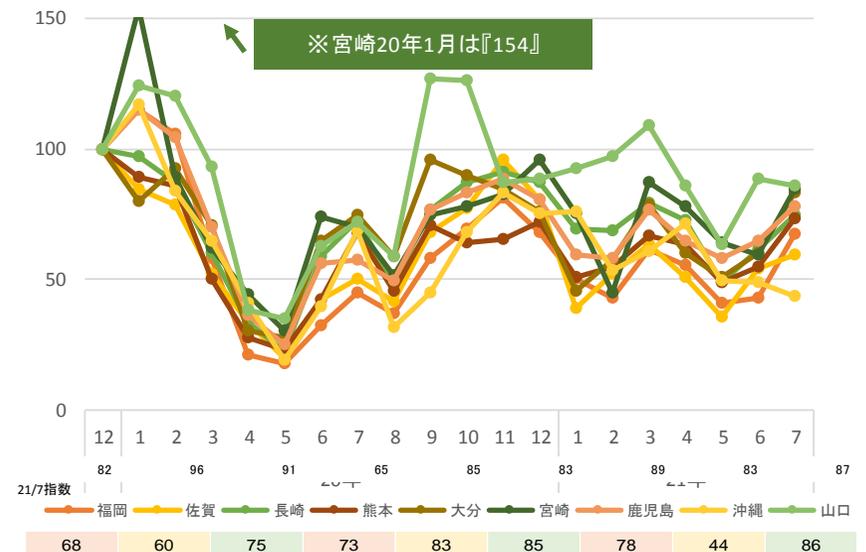
ビジネス目的延宿泊数 月次推移

- ビジネス目的の宿泊は観光目的の宿泊と比べ、GOTOキャンペーンの影響が小さいものの、比較的変動が小さく安定して推移している。
- 21年以降は観光目的の宿泊を上回る水準で概ね推移している（コロナ前の4～8割程度）。
- コロナ前の水準までに回復していない背景として、テレワーク等の普及によりビジネスの在り方に変化が生じていると推測される（出張によるリアル打合せ⇒オンラインミーティング、MICE・展示会⇒オンラインで代替など）。当変化が構造的であるとすれば、コロナ影響が収束した後も引き続きビジネス目的の宿泊需要が低迷しコロナ前の水準に戻らない可能性が考えられる。

九州・沖縄・山口計 ビジネス目的延宿泊数推移
(千人泊)



九州・沖縄・山口計 ビジネス目的指数推移
(19年同月=100)



参考資料 2 県別の宿泊動向データ

福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島

2019年1月～2021年7月の月次推移

参照データ：

マクロデータ（延宿泊者数）：観光庁_宿泊旅行統計調査

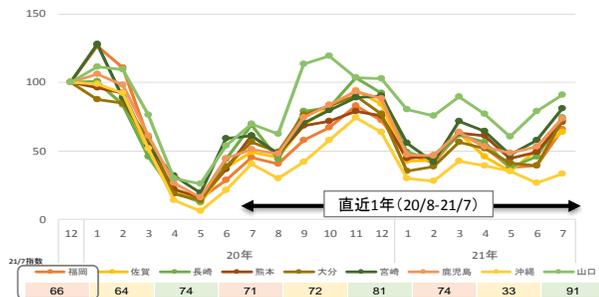
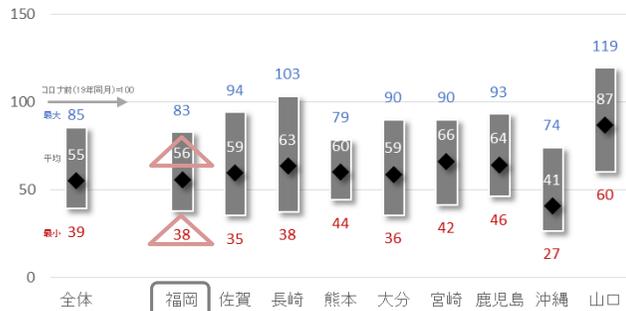
マイクロデータ（主要エリア別 客室価格・稼働指数・空室数等）

:九州経済調査協会_DATASALAD

参考資料2 県別の宿泊動向データ — 福岡

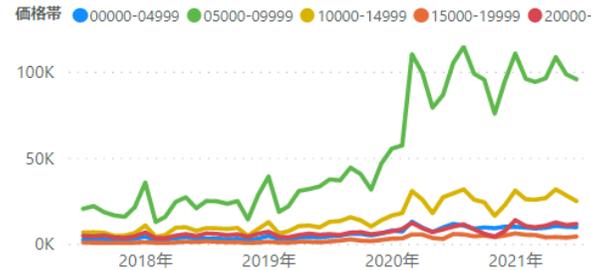
- ▶ 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/11時点でコロナ前比8割強、直近21/7時点では7割弱、**平均すると6割弱の水準**であった。多くの宿泊施設を有する福岡県ではインバウンド剥落の影響は他県に比べ大きく、需要低迷期には沖縄県と同様にコロナ前の4割を切る水準まで低下。
- ▶ OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、福岡市において低価格帯（1万円未満）及び高価格帯（2万円以上）が安定している一方で、**中間価格帯（1万円代）は低下傾向**にあり値下げによる価格競争が進んでいると推察される。北九州市は高価格帯（1.5万円以上2万円未満）が一度は価格低下も足許は単価を戻しつつある。
- ▶ 在庫客室数は、特に福岡市の低価格帯（1万円未満）での増加が顕著。**MICE・興行等を含む大型イベント自粛により、都市型の安価な宿泊需要が低下**していることが推測される。

県別の延宿泊者数回復動向 ～ 全体
対象期間: 直近20/8-21/7

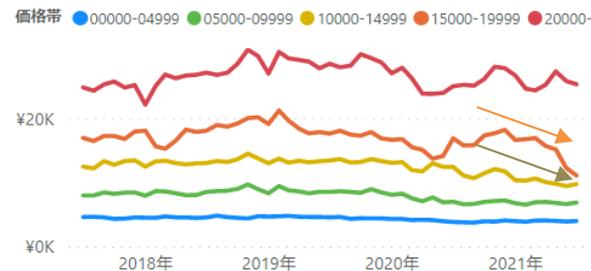


福岡市

在庫客室数推移

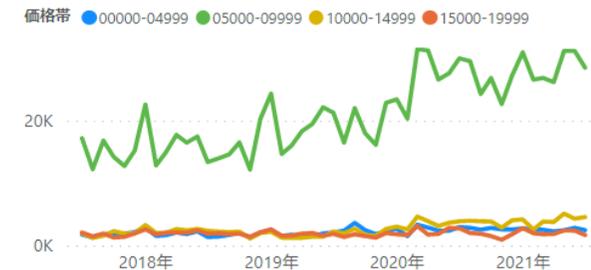


平均空室価格(実測)推移

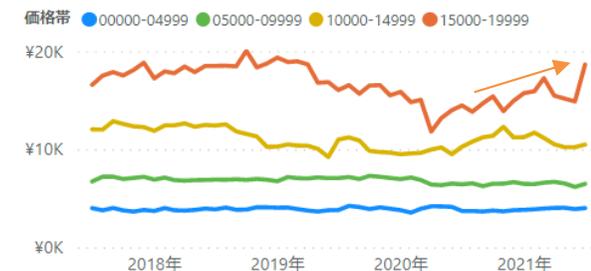


北九州市

在庫客室数推移

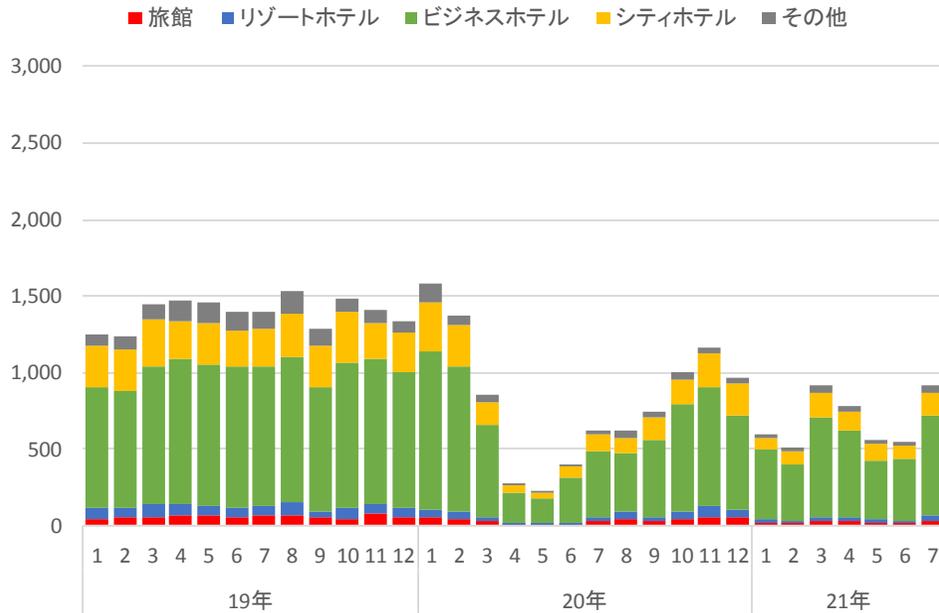


平均空室価格(実測)推移

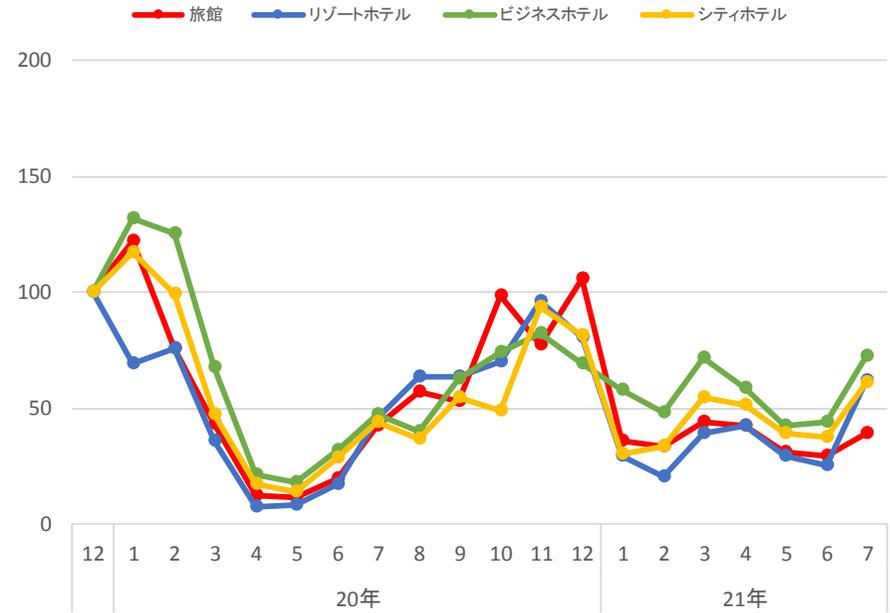


参考資料2 県別の宿泊動向データ — 福岡 分析①(延宿泊者推移)

福岡県 延宿泊数推移(千人泊)



福岡県 指数推移(19年同月=100)



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 福岡 分析②(施設タイプ別回復動向)

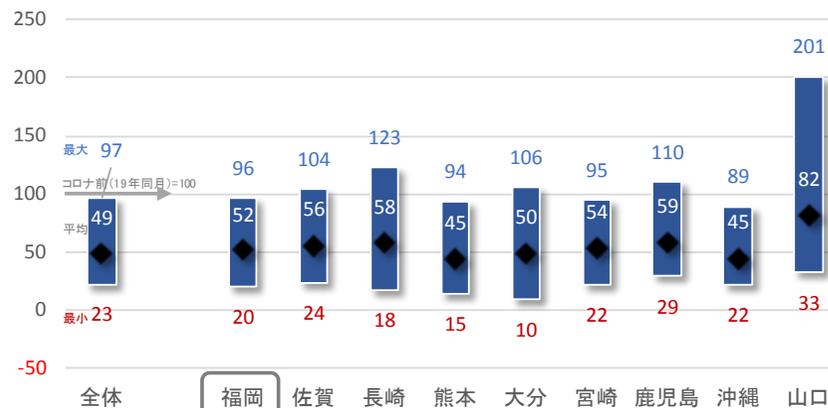
県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



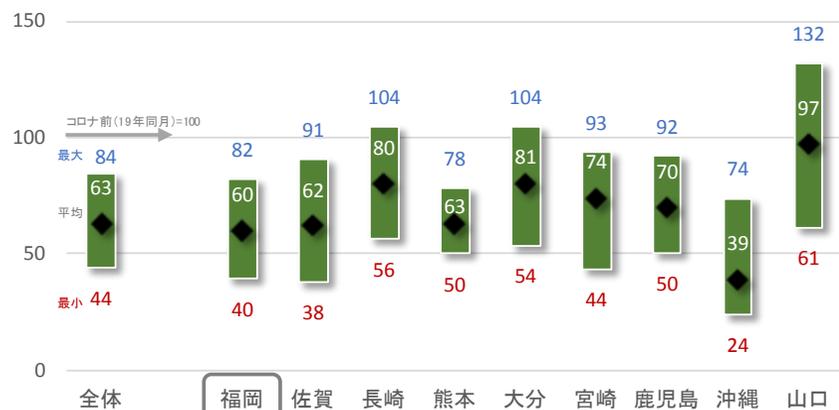
県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



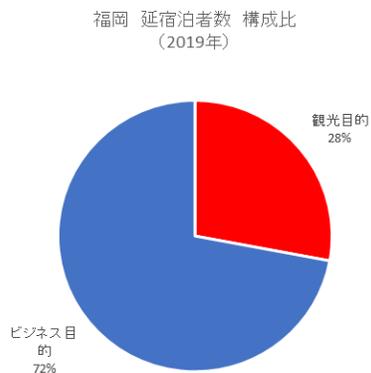
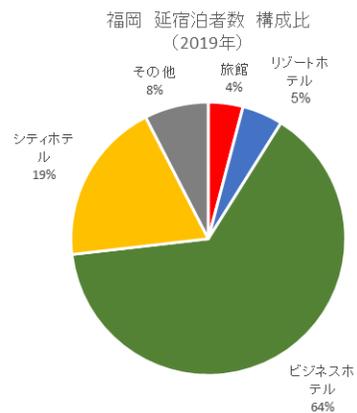
参考資料2 県別の宿泊動向データ — 福岡 分析③(データ概要)

マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向



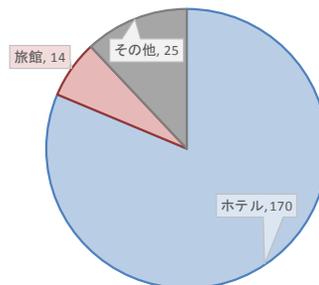
マイクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

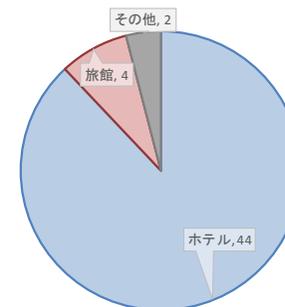
～OTA[オンライントラベルエージェント]データ (DATA SALAD)

対象データ概要

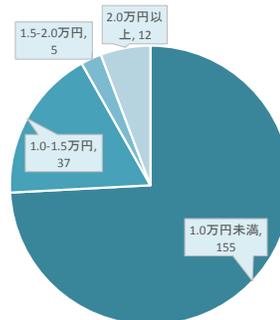
福岡市 209施設



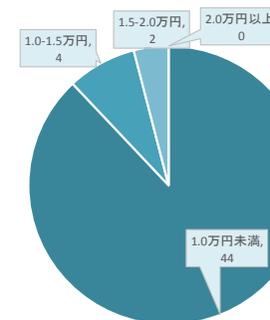
北九州市 44施設



福岡市 209施設

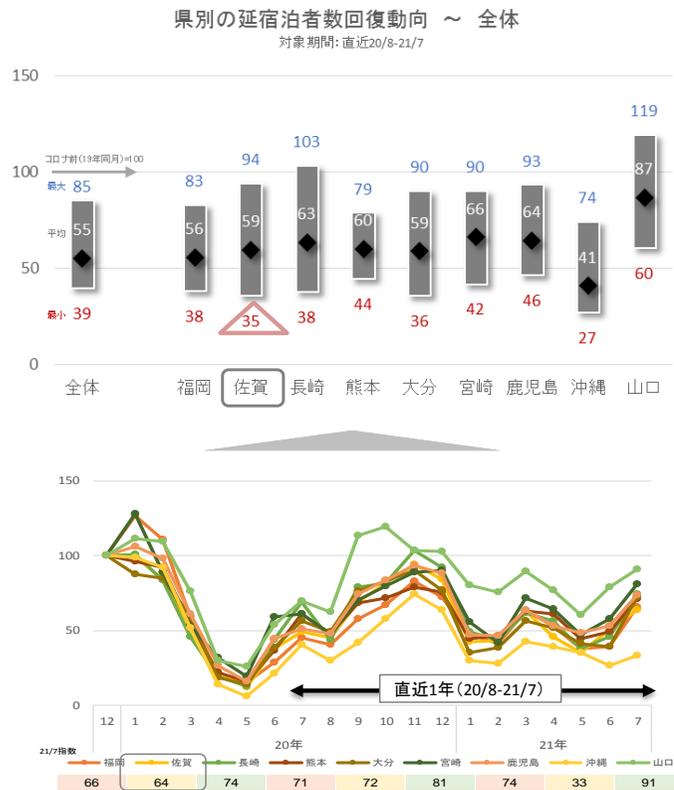


北九州市 44施設

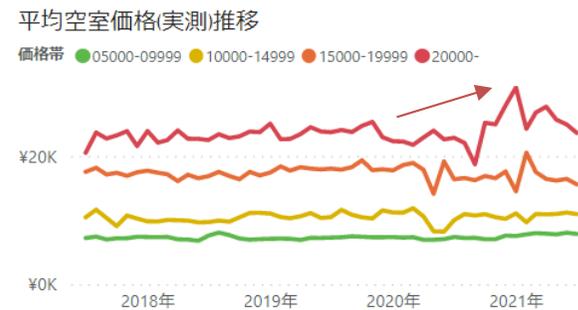


参考資料2 県別の宿泊動向データ — 佐賀

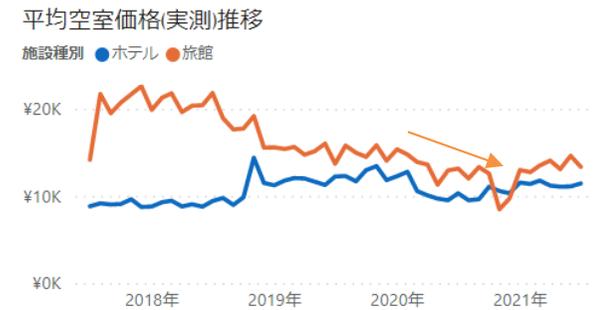
- 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/11時点でコロナ前比9割強、直近21/5時点では6割強、**平均すると6割弱の水準**であった。20年末にかけて他県比好調であったものの、21年以降は他県と同様のトレンド。
- OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、**嬉野市・武雄市において高価格帯（2万円以上）が価格を緩やかに上昇**させ、結果として増収につながっていると推測される。他方佐賀市の旅館はコロナ前から継続して価格を下げている傾向にある。
- **在庫客室数は、いずれの価格帯においても変動は大きい**。客室供給が相対的に少ないことから、近隣福岡市の都市圏需要の変動により大きく左右されると考えられる。



嬉野市 + 武雄市

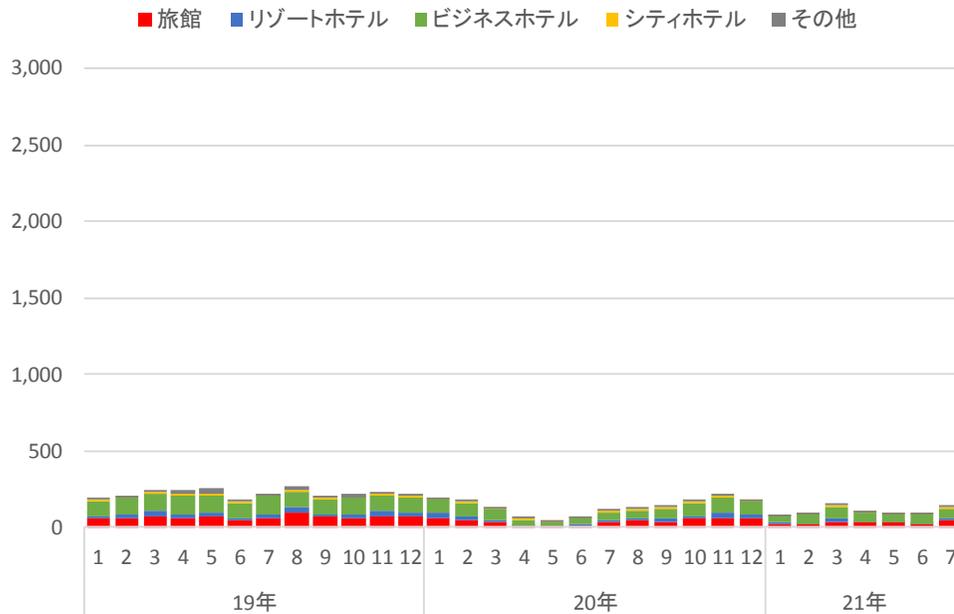


佐賀市

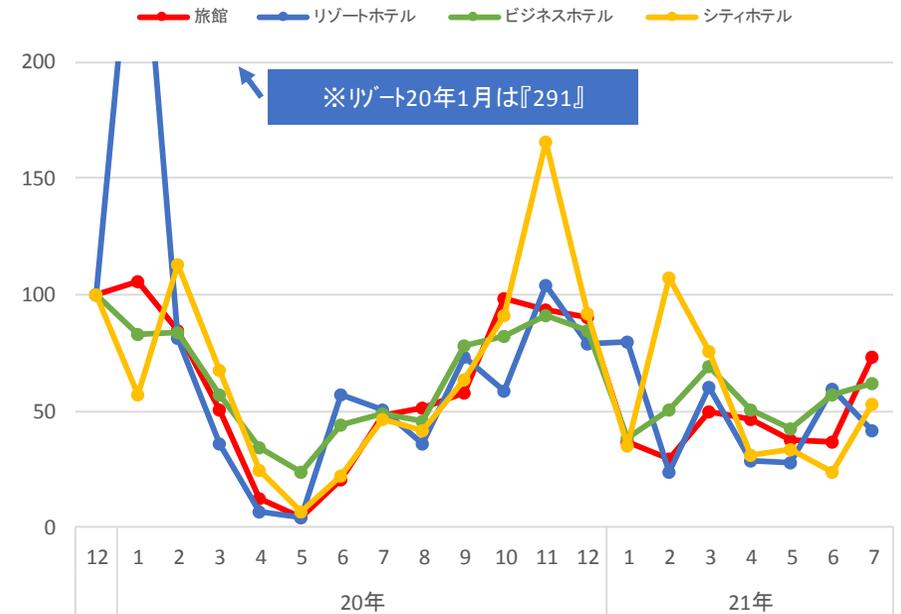


参考資料2 県別の宿泊動向データ — 佐賀 分析①(延宿泊者推移)

佐賀県 延宿泊数推移(千人泊)



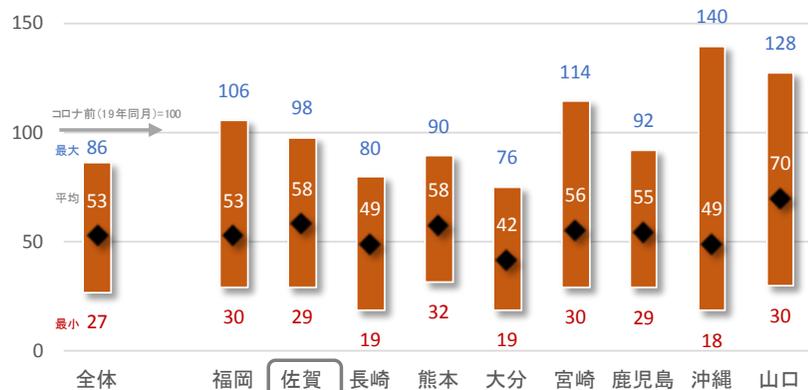
佐賀県 指数推移(19年同月=100)



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 佐賀 分析②(施設タイプ別回復動向)

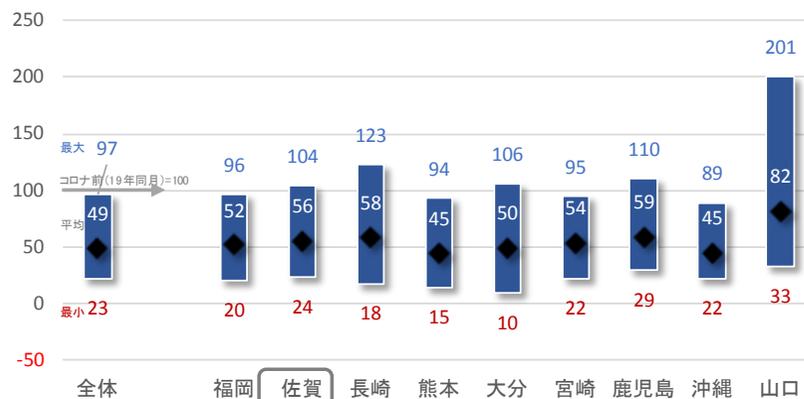
県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



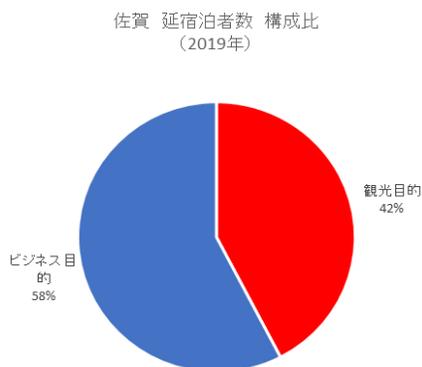
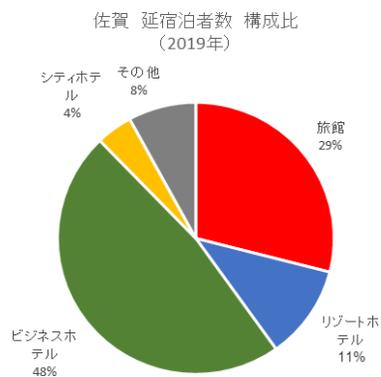
参考資料2 県別の宿泊動向データ — 佐賀 分析③(データ概要)

マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向



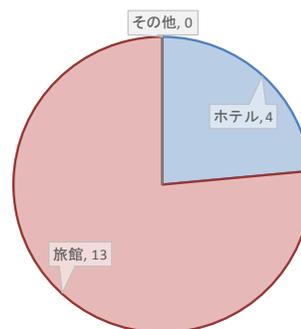
マイクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

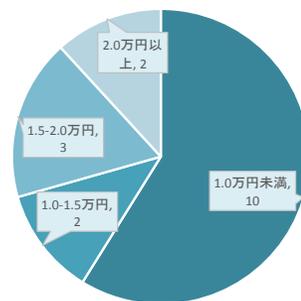
～OTA[オンライントラベルエージェント]データ (DATA SALAD)

対象データ概要

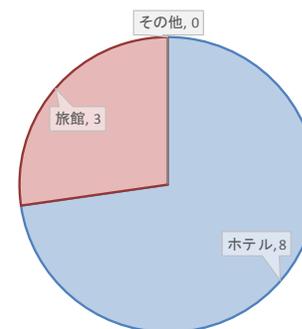
嬉野市+武雄市 17施設



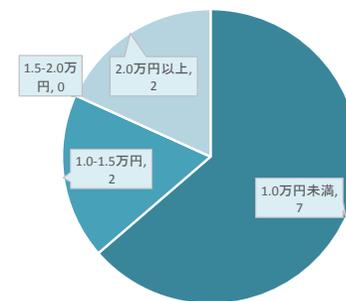
嬉野市+武雄市 17施設



佐賀市 11施設

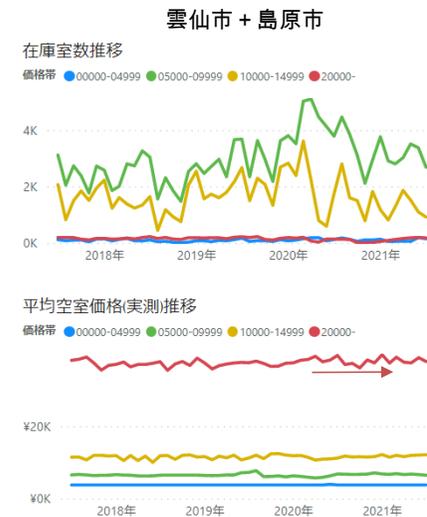
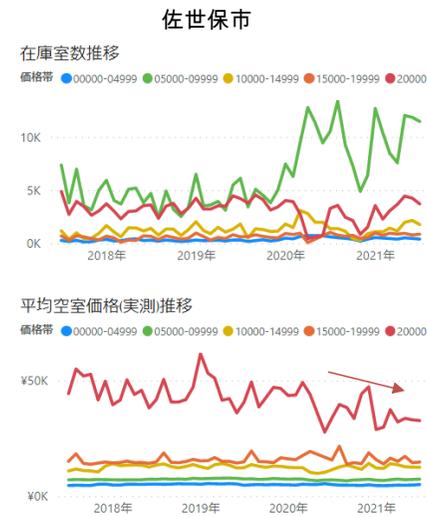
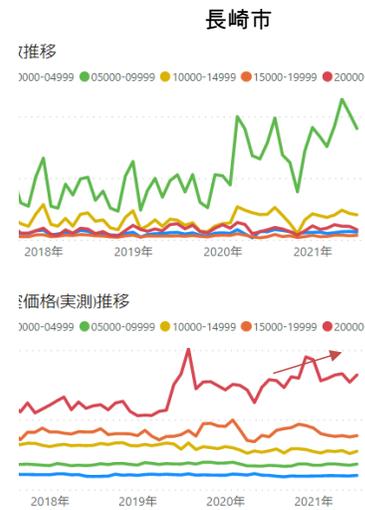
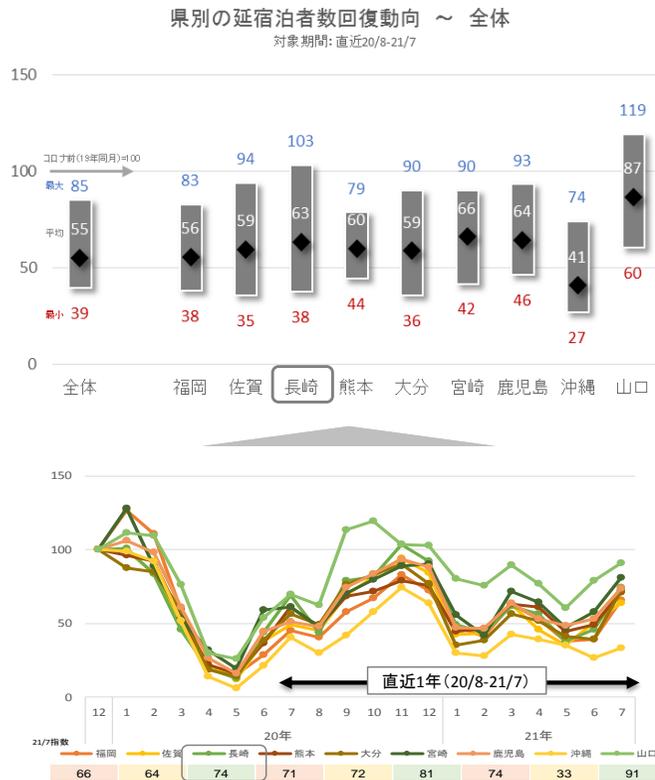


佐賀市 11施設



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 長崎

- 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/11時点でコロナ前を上回る水準（10割強）、直近21/7時点では7割強、**平均すると6割強の水準**であった。20年末にかけて他県比好調であったものの、21年以降は他県と同様のトレンド。
- OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、**高価格帯（2万円超）において長崎市は上昇傾向、佐世保市は低下傾向、雲仙・島原市は横ばいと、エリアによって差異**が見られた。
- 佐世保市では、ハウステンボス内の高価格帯ホテルが上記に該当することから、広域集客が伸び悩む21年以降に価格を引き下げ集客を図ったものと推測される。



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 長崎 分析②(施設タイプ別回復動向)

県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



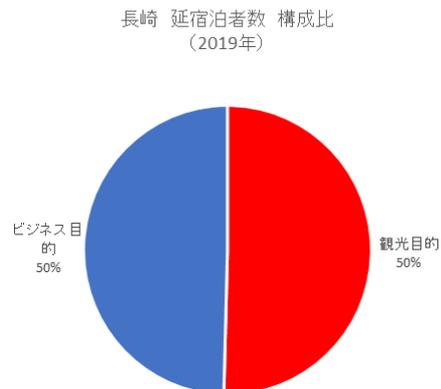
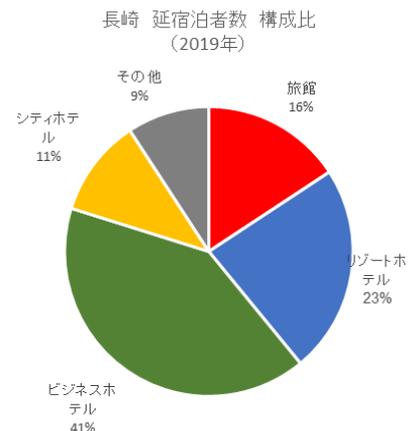
参考資料2 県別の宿泊動向データ — 長崎 分析③(データ概要)

マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向

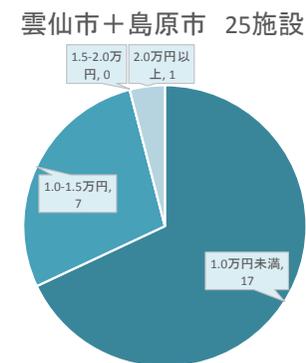
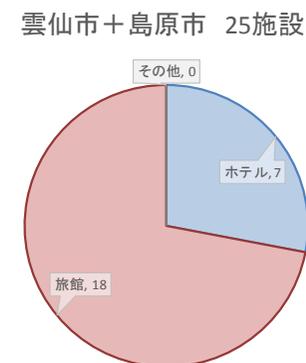
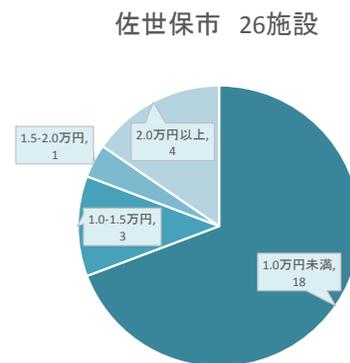
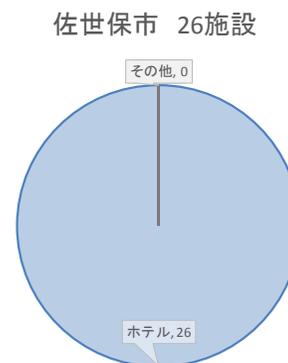
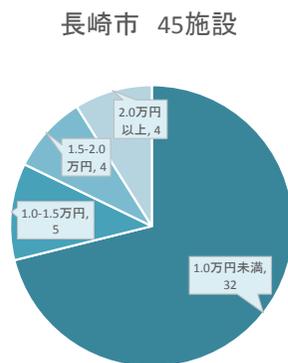
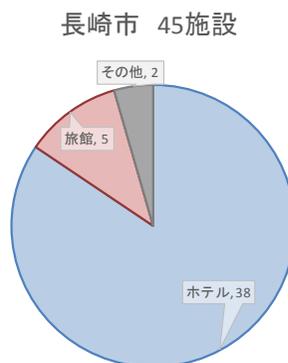


ミクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

～OTA[オンライントラベルエージェント]データ (DATA SALAD)

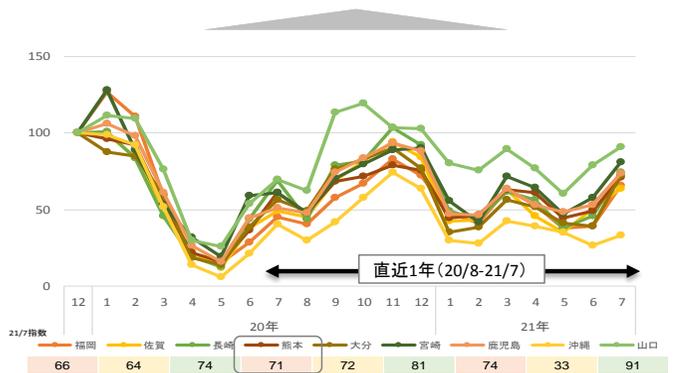
対象データ概要



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 熊本

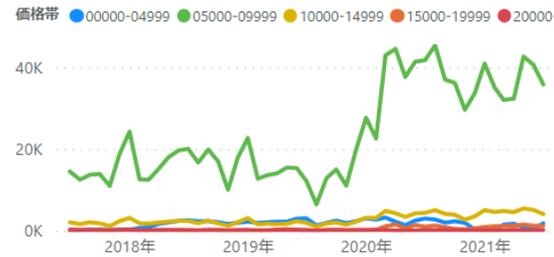
- 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/11時点で8割弱、直近21/7時点では7割強、**平均すると6割程度の水準**であった。20年末にかけて他県比劣後する傾向にあったものの、21年以降は他県と同水準で推移。
- OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、**熊本市の中間価格帯（1.0～1.5万円）で価格水準が低下**しているものの、**高価格帯（2万円超）では熊本市及び阿蘇郡ともに堅調推移**。
- 阿蘇郡の在庫室数はコロナ前より継続して季節毎の変動が大きい。他方、在庫室数の変動に関わらず価格を一定させる戦略をエリア全体で実行している。

県別の延宿泊者数回復動向 ～ 全体
対象期間：直近20/8-21/7

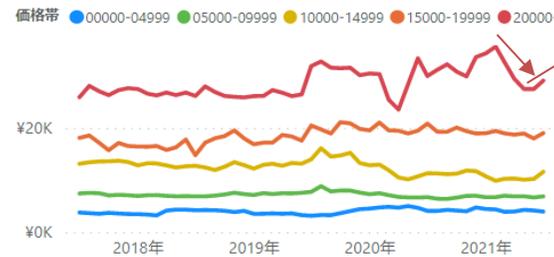


熊本市

在庫室数推移

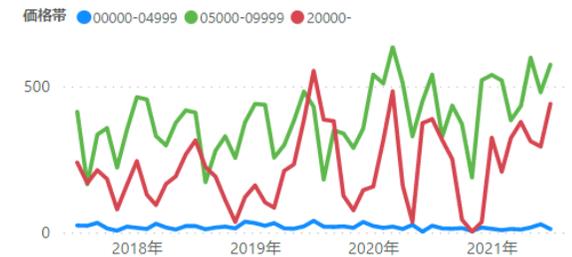


平均空室価格(実測)推移



阿蘇郡 (南小国町他)

在庫室数推移

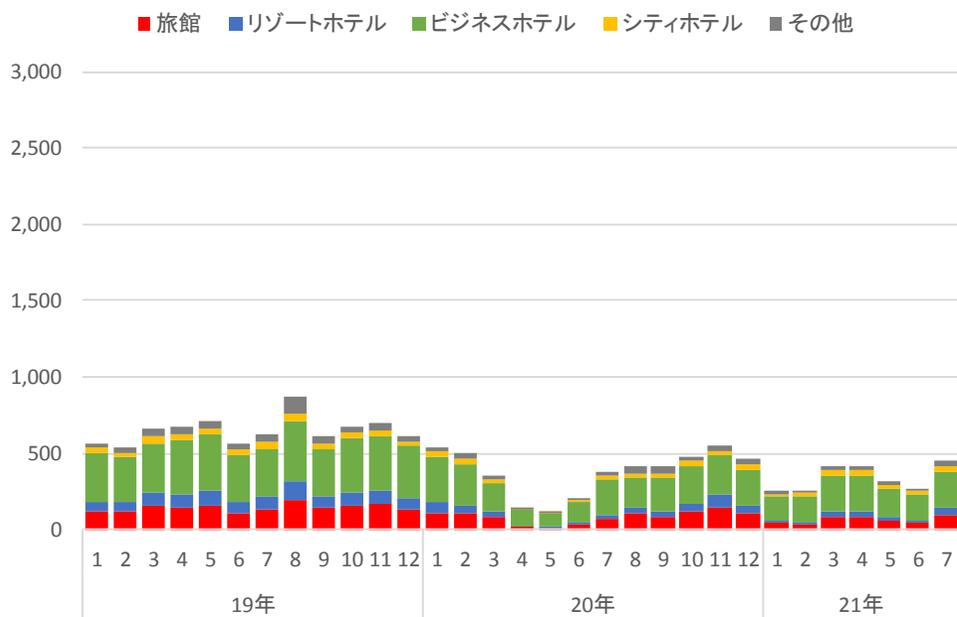


平均空室価格(実測)推移

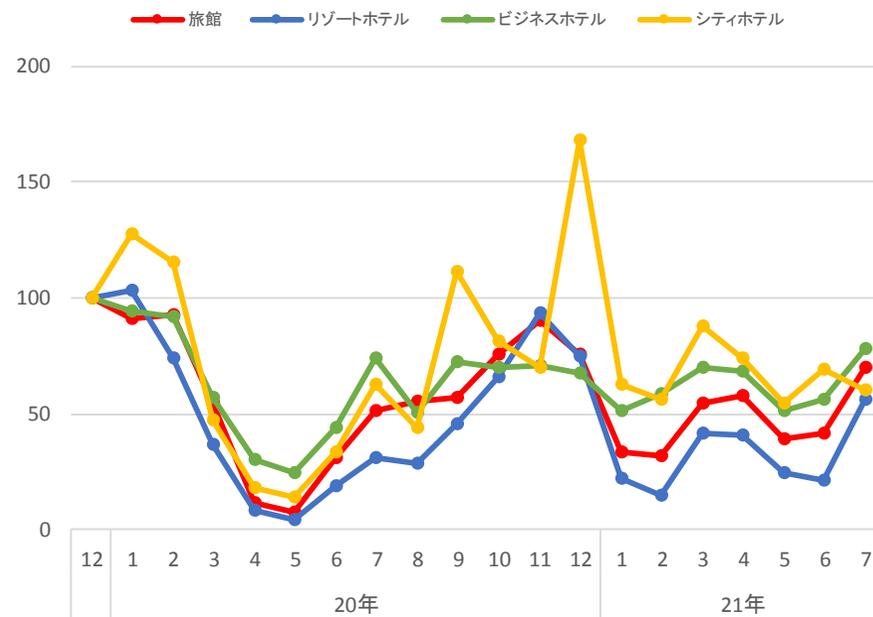


参考資料2 県別の宿泊動向データ — 熊本 分析①(延宿泊者推移)

熊本県 延宿泊数推移(千人泊)



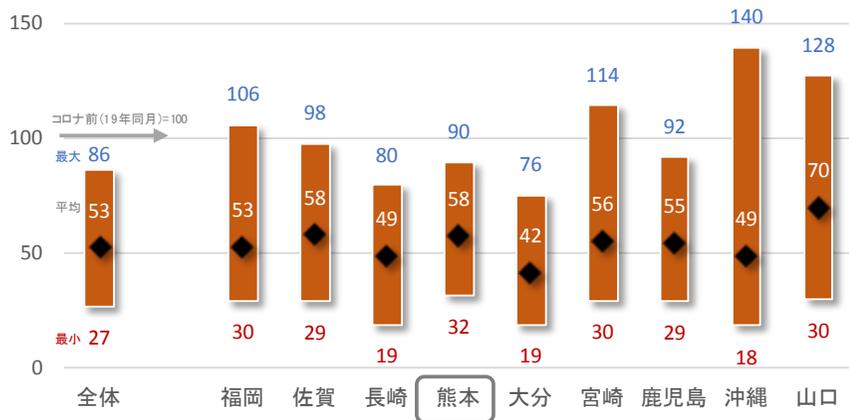
熊本県 指数推移(19年同月=100)



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 熊本 分析②(施設タイプ別回復動向)

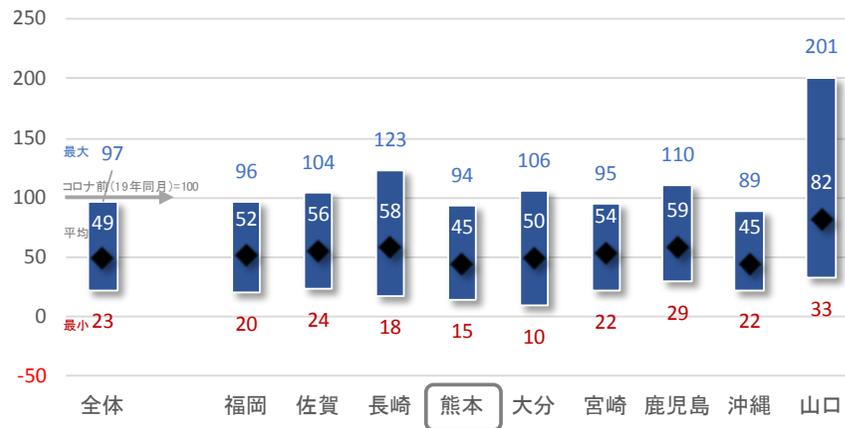
県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 熊本 分析③(データ概要)

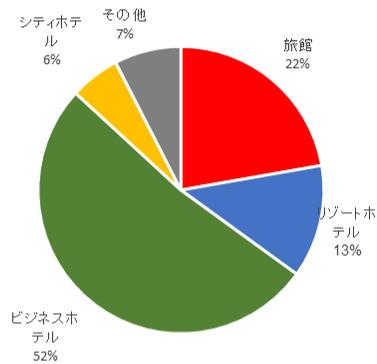
マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

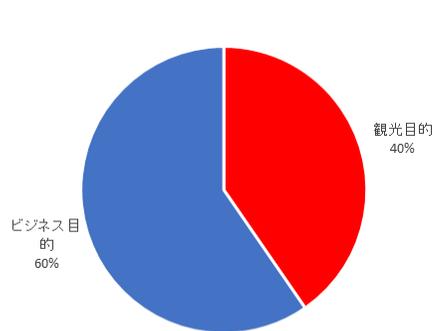
～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向

熊本 延宿泊者数 構成比 (2019年)



熊本 延宿泊者数 構成比 (2019年)



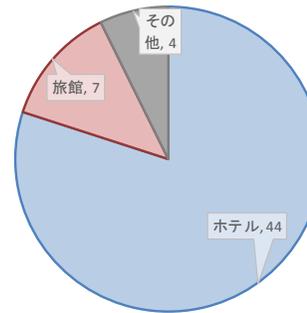
マイクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

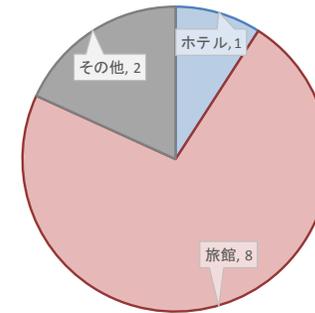
～OTA[オンライントラベルエージェント]データ (DATA SALAD)

対象データ概要

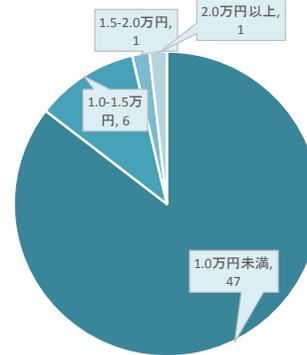
熊本市 55施設



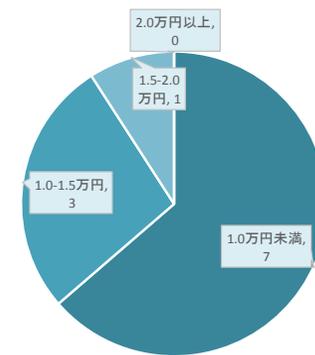
阿蘇郡 11施設



熊本市 55施設

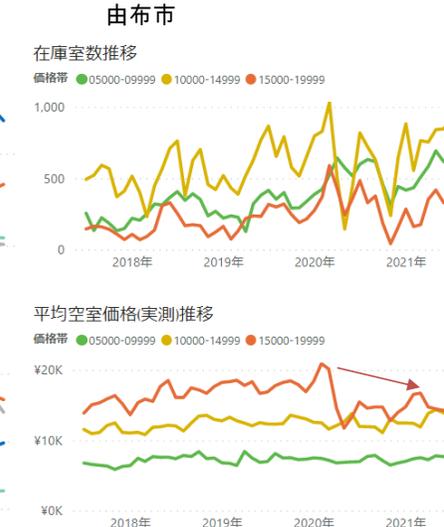
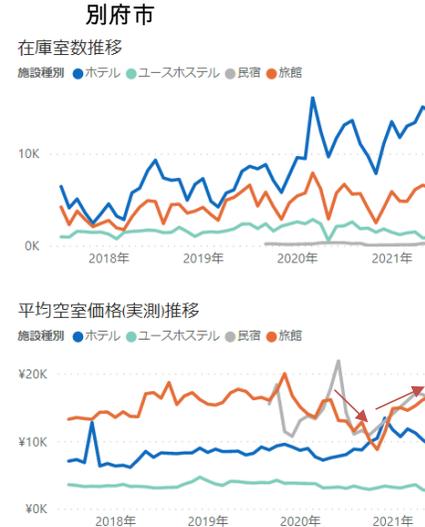
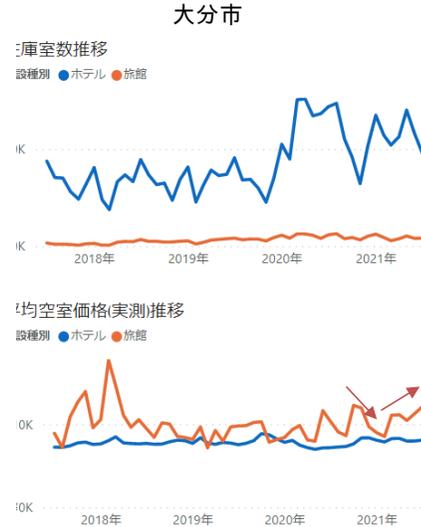


阿蘇郡 11施設



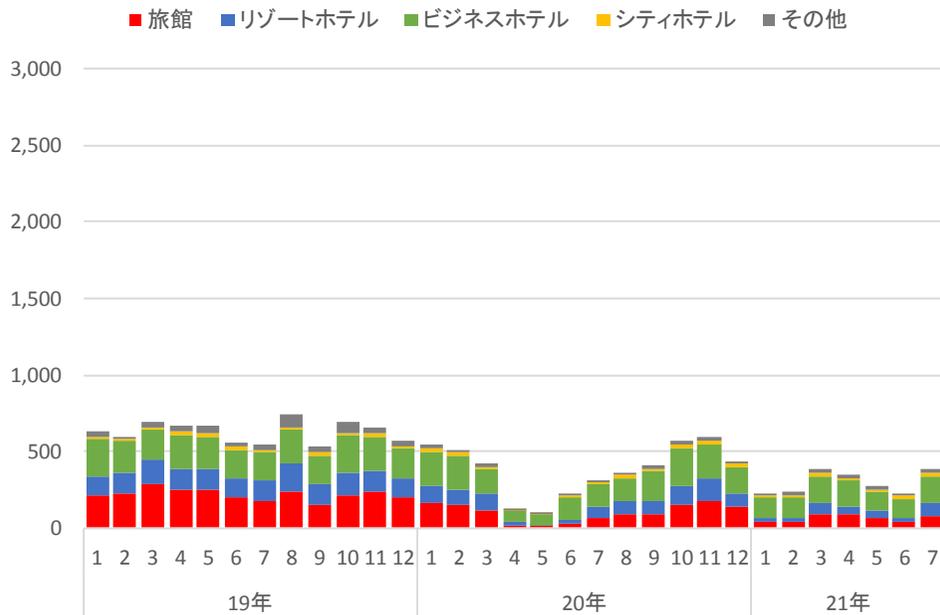
参考資料2 県別の宿泊動向データ — 大分

- 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/11時点で約9割、直近21/7時点では7割強、**平均すると6割弱の水準**であった。概ね他県と同水準で推移。
- OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、大分市・別府市の旅館が足許上昇傾向。他方、由布市の高価格帯（1.5-2.0万円）ではコロナ前より価格の水準が低下している。別府市でのヒアリングでは各宿泊施設において**団体から個人客への対応強化**の事例も複数聞かれ、そのような積み上げが客単価上昇に寄与しているものと推測。
- 由布市の在庫室数は変動が相対的に大きい。都市圏からの宿泊客比率が大きいことから、**地域間を跨ぐ旅行の自粛が足許の在庫室数の増加に影響**していると推測される。

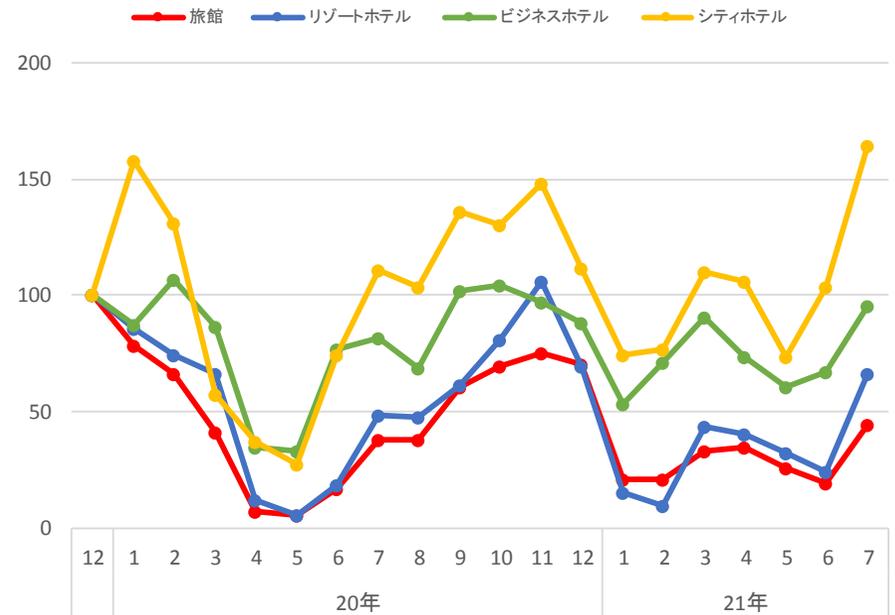


参考資料2 県別の宿泊動向データ — 大分 分析①(延宿泊者推移)

大分県 延宿泊数推移(千人泊)



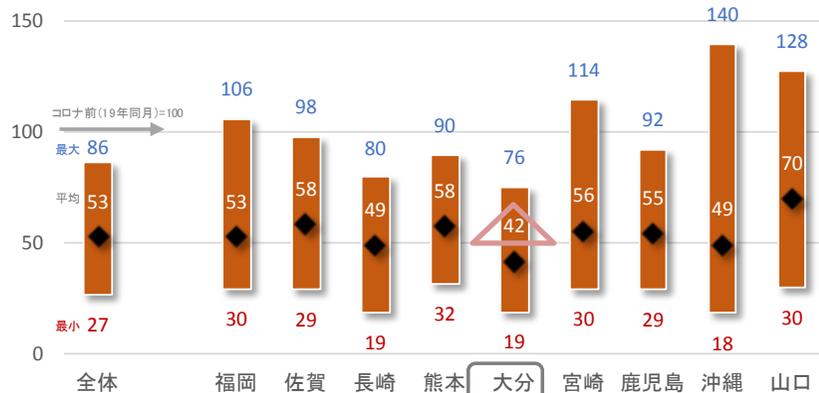
大分県 指数推移(19年同月=100)



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 大分 分析②(施設タイプ別回復動向)

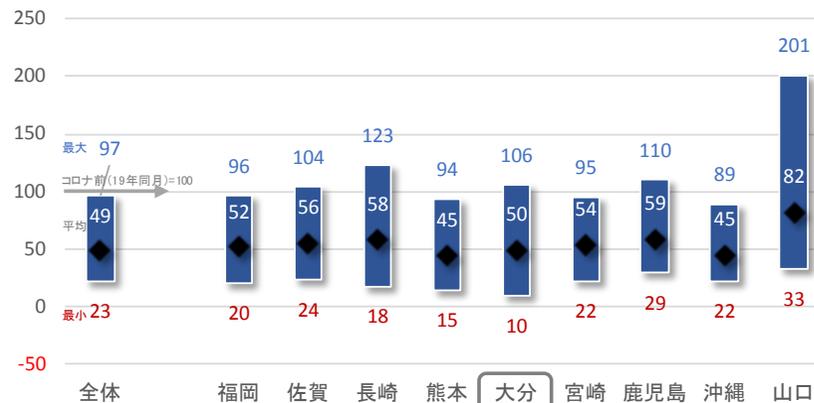
県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



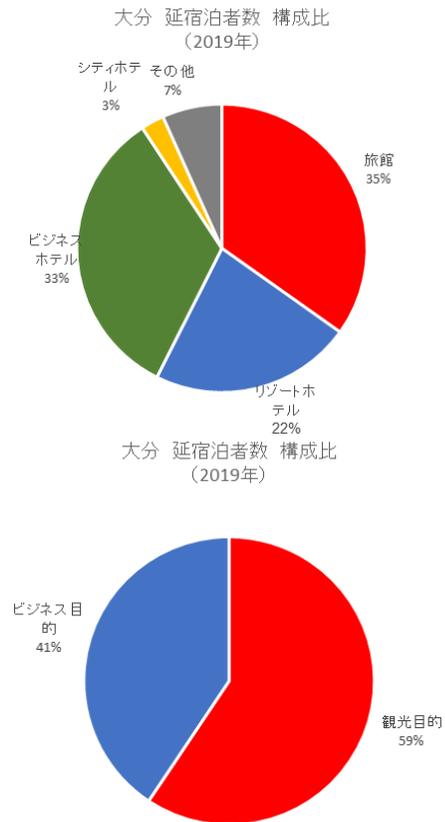
参考資料2 県別の宿泊動向データ — 大分 分析③(データ概要)

マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向

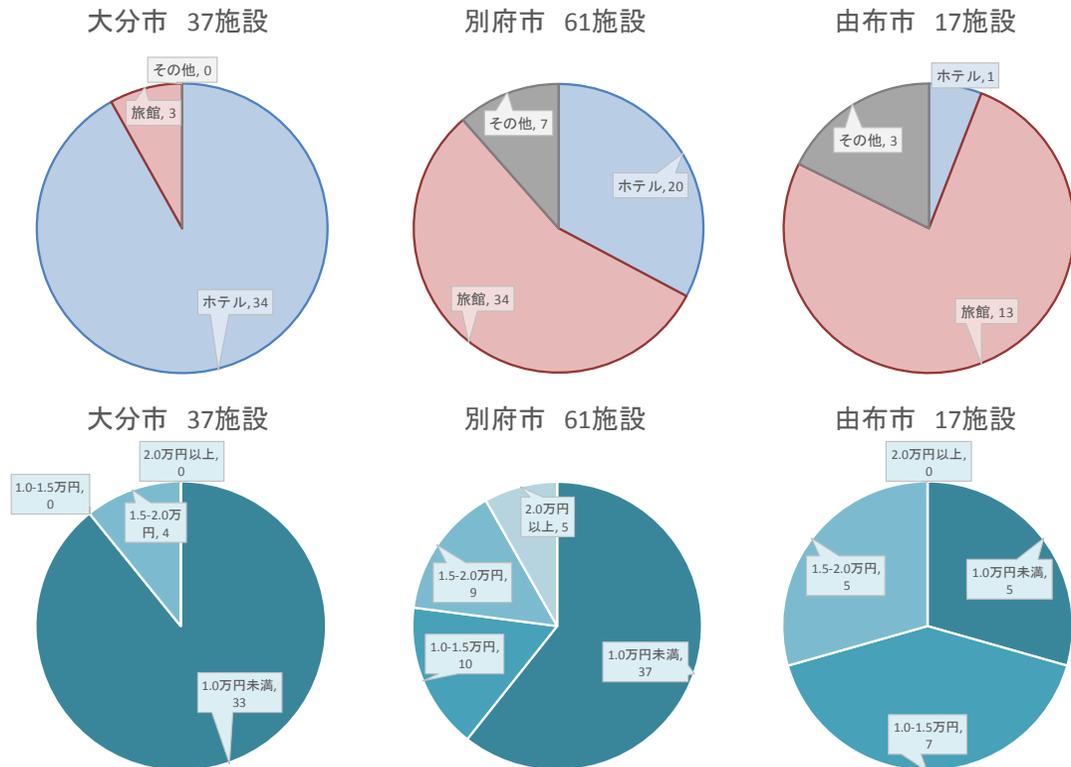


マイクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

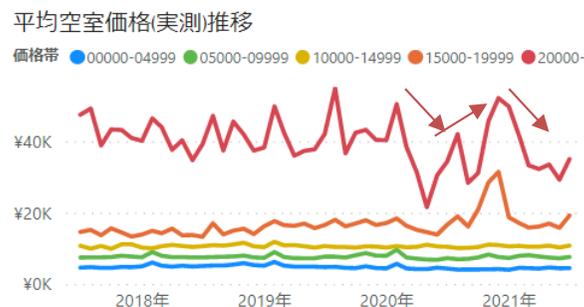
～OTA(オンライントラベルエージェント)データ (DATA SALAD)

対象データ概要



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 宮崎

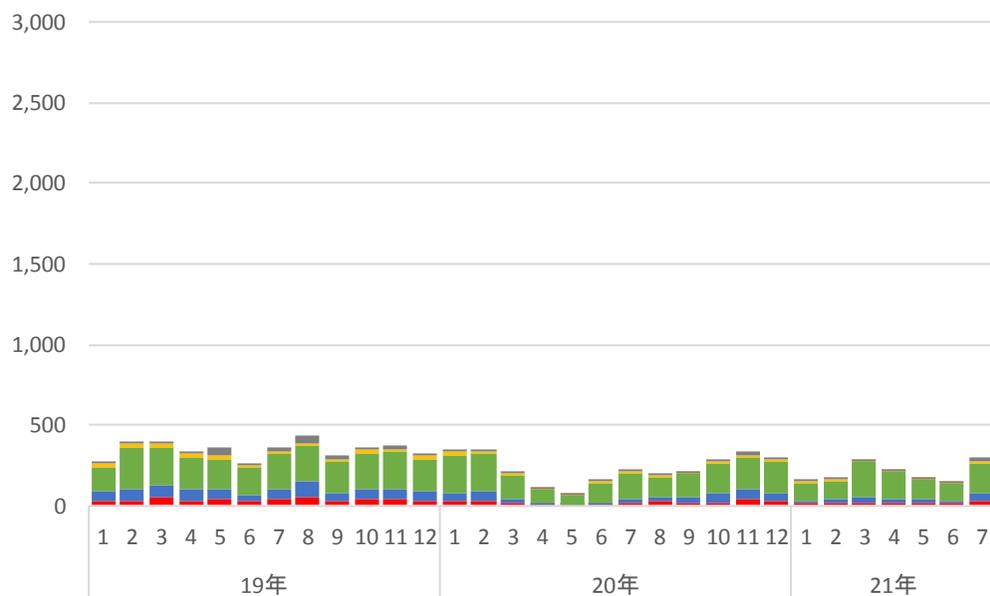
- 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/12時点で約9割、直近21/7時点では8割強、**平均すると7割弱の水準**であった。概ね他県と同水準で推移。
- OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、**宮崎市の高価格帯（2万円超）ではGOTOトラベル施策実施の有無によって、大きく価格が変動**。他方、宮崎市他価格及び延岡市の平均価格は概ね安定。
- 在庫室数は従来より**季節毎の変動が大きい傾向**にあったが、コロナ禍においては季節間の変動が大きい特徴はそのままに在庫水準が上昇した。



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 宮崎 分析①(延宿泊者推移)

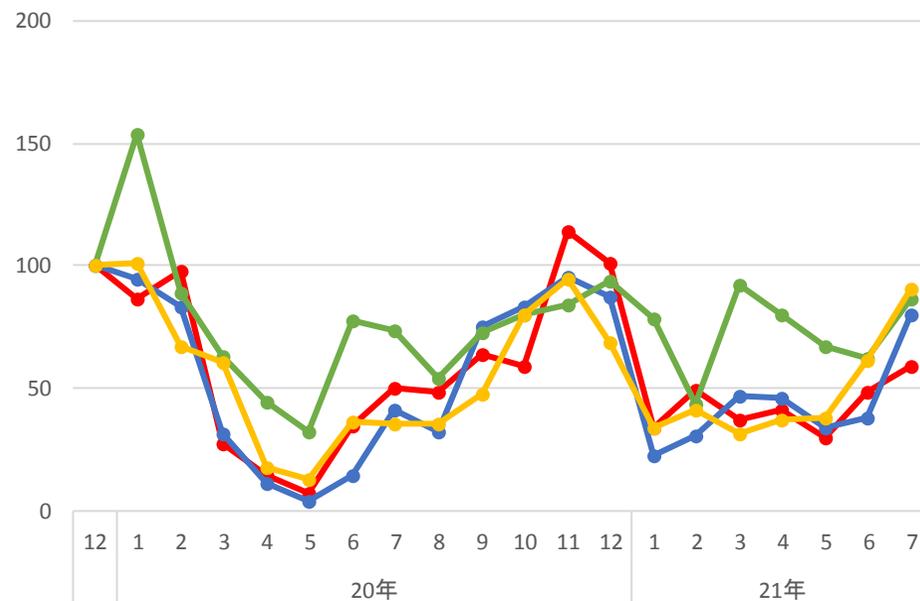
宮崎県 延宿泊数推移(千人泊)

■ 旅館 ■ リゾートホテル ■ ビジネスホテル ■ シティホテル ■ その他



宮崎県 指数推移(19年同月=100)

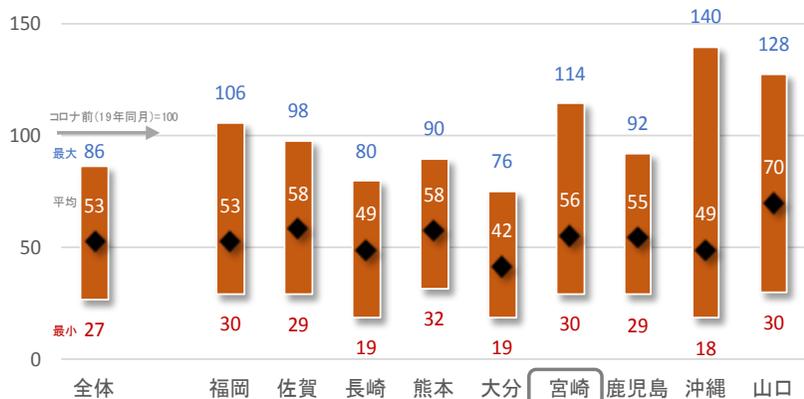
● 旅館 ● リゾートホテル ● ビジネスホテル ● シティホテル



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 宮崎 分析②(施設タイプ別回復動向)

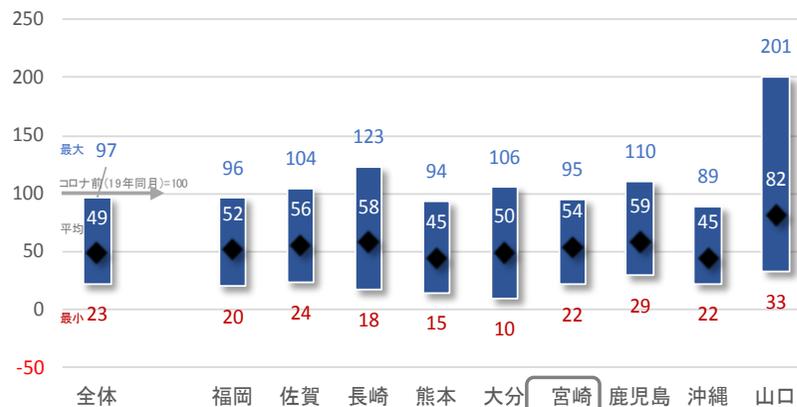
県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



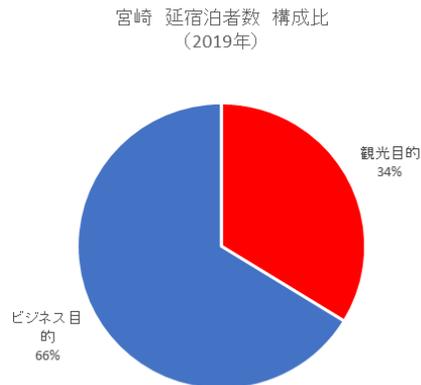
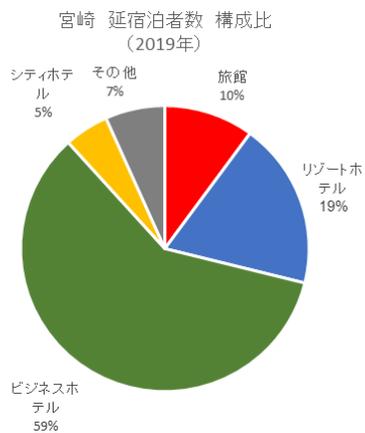
参考資料2 県別の宿泊動向データ — 宮崎 分析③(データ概要)

マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向



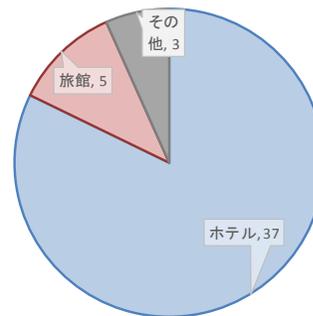
マイクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

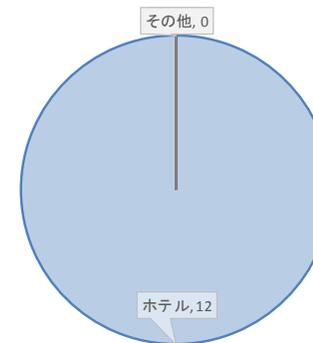
～OTA(オンライントラベルエージェント)データ (DATA SALAD)

対象データ概要

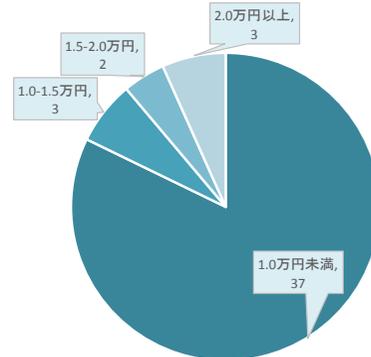
宮崎市 46施設



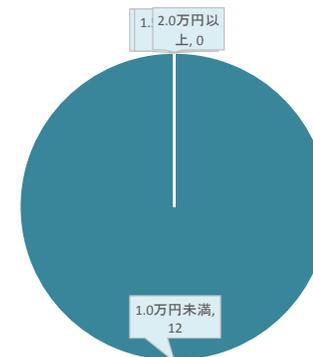
延岡市 12施設



宮崎市 46施設



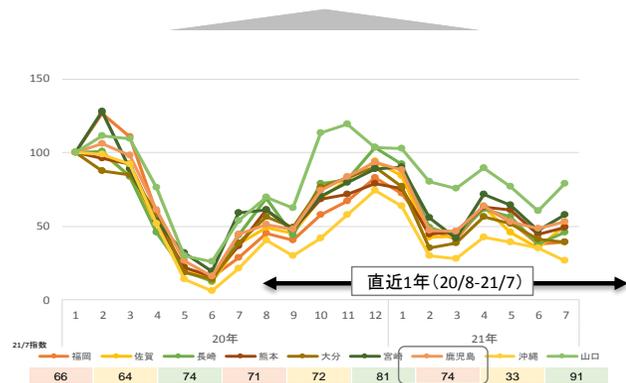
延岡市 12施設



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 鹿児島

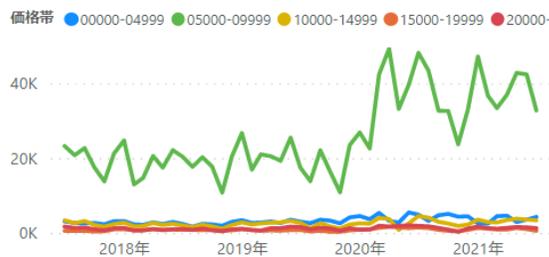
- 直近1年の宿泊者数動向は、最も回復した20/11時点で約9割強、直近21/5時点では7割強、**平均すると6割強の水準**であった。概ね他県と同水準で推移。
- OTAデータにおける平均価格の動向（右下図）では、**鹿児島市の高価格帯（2万円超）において2020年に落ち込んだ価格水準を回復し足許はコロナ前を上回る水準で提供**。他方、霧島市はいずれの価格帯も安定推移。
- 在庫室数の増減によって価格を変える戦略は見受けられなかった。

県別の延宿泊者数回復動向 ～ 全体
対象期間: 直近20/8-21/7

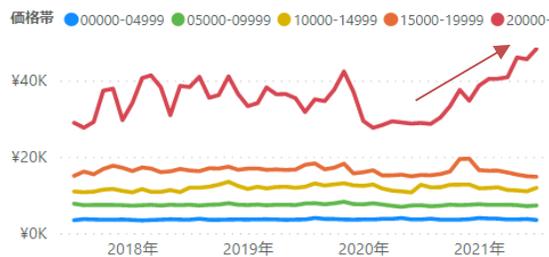


鹿児島市

在庫室数推移

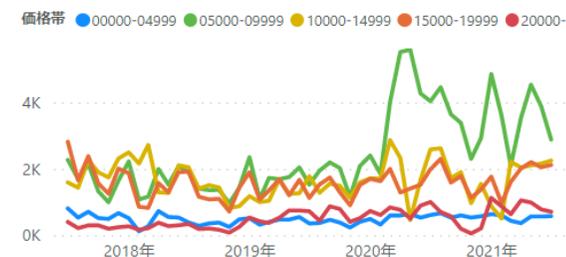


平均空室価格(実測)推移

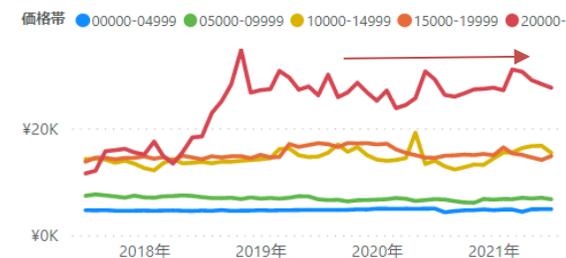


霧島市

在庫室数推移

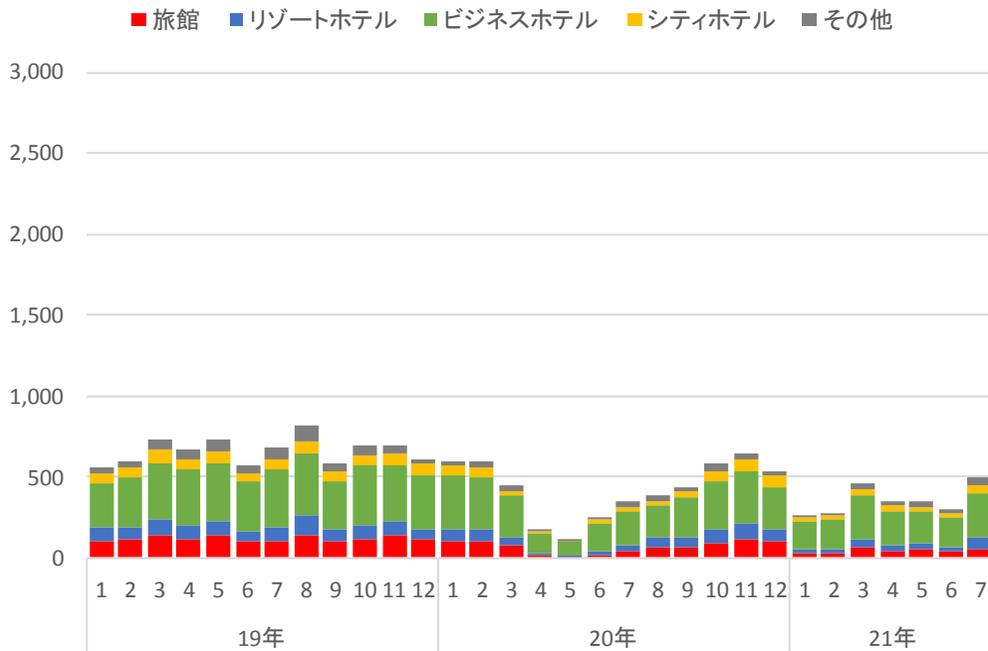


平均空室価格(実測)推移

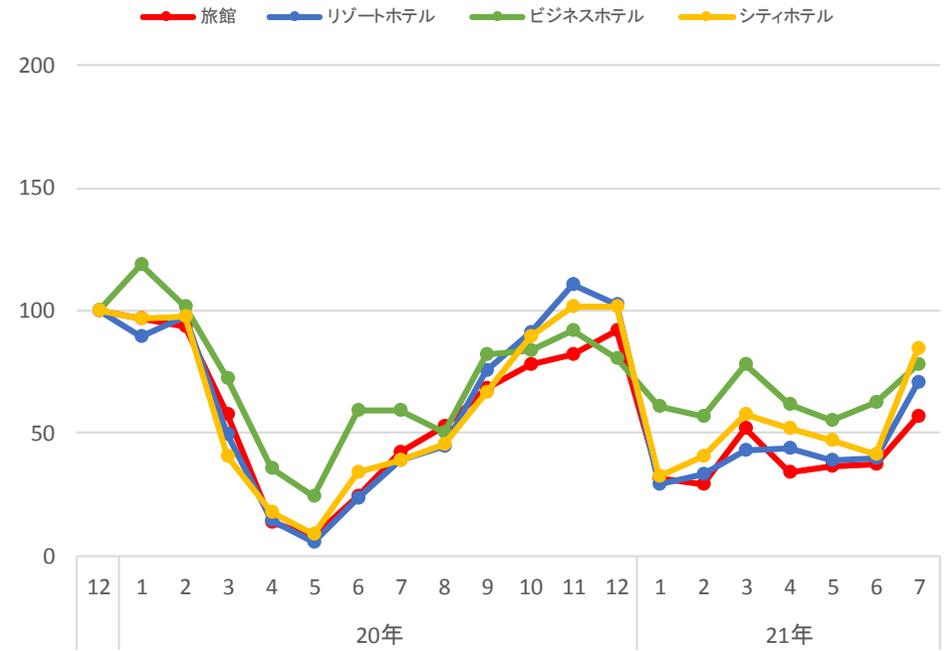


参考資料2 県別の宿泊動向データ — 鹿児島 分析①(延宿泊者推移)

鹿児島県 延宿泊数推移(千人泊)



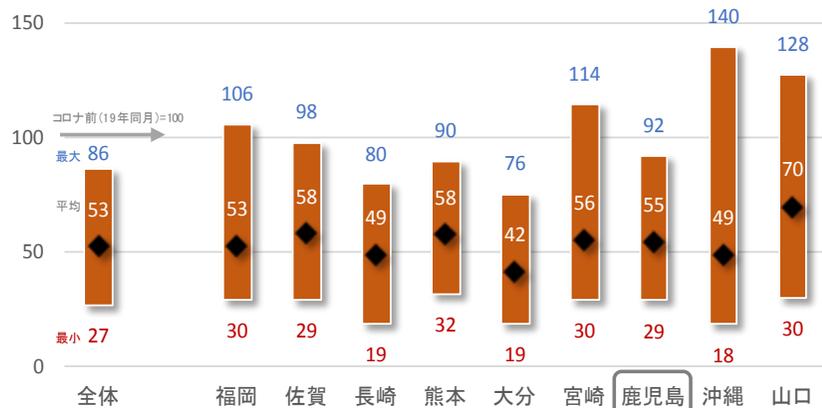
鹿児島県 指数推移(19年同月=100)



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 鹿児島 分析②(施設タイプ別回復動向)

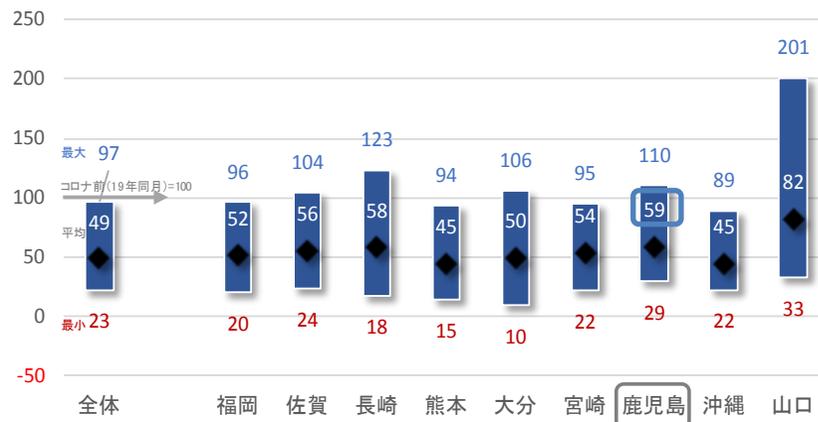
県別の延宿泊者数回復動向 ～ 旅館

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ リゾートホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ ビジネスホテル

対象期間:直近20/8-21/7



県別の延宿泊者数回復動向 ～ シティホテル

対象期間:直近20/8-21/7



参考資料2 県別の宿泊動向データ — 鹿児島 分析③(データ概要)

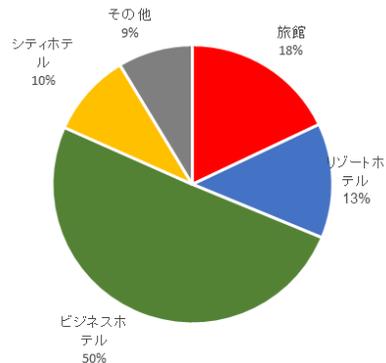
マクロデータ

施設タイプ別・目的別・県全体

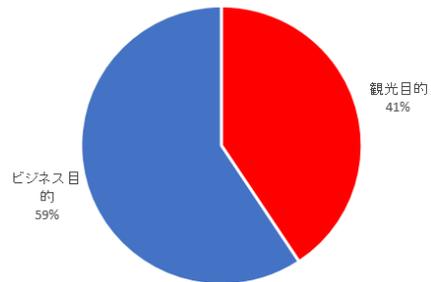
～宿泊旅行統計調査

コロナ前宿泊動向

鹿児島 延宿泊者数 構成比 (2019年)



鹿児島 延宿泊者数 構成比 (2019年)



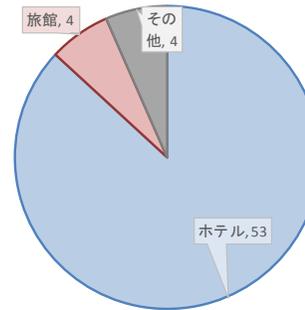
マイクロデータ (OTA)

施設タイプ別・価格帯別・主要地域別

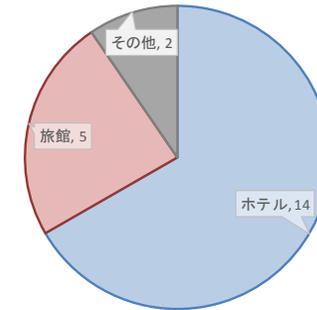
～OTA[オンライントラベルエージェント]データ (DATA SALAD)

対象データ概要

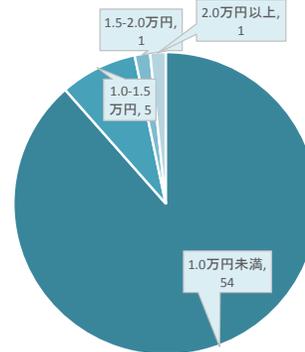
鹿児島市 61施設



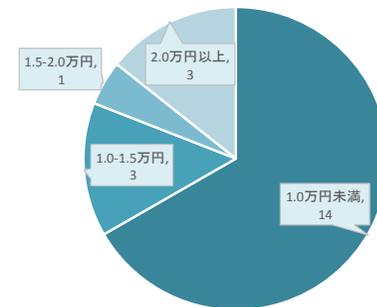
霧島市 21施設



鹿児島市 61施設



霧島市 21施設

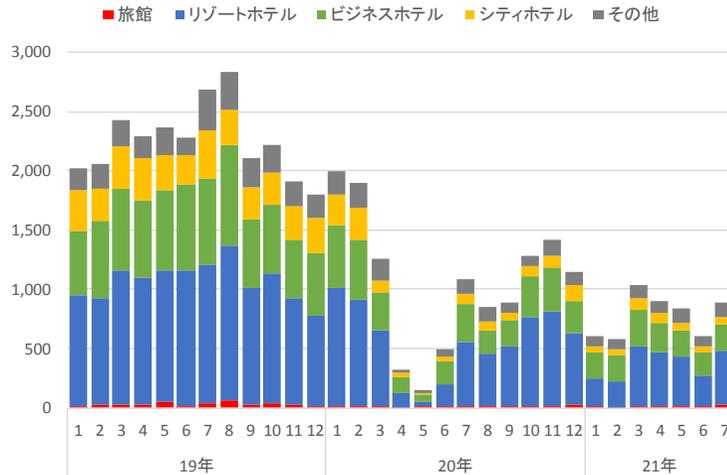


参考資料2 県別の宿泊動向データ

延宿泊数 月次推移 - 沖縄県

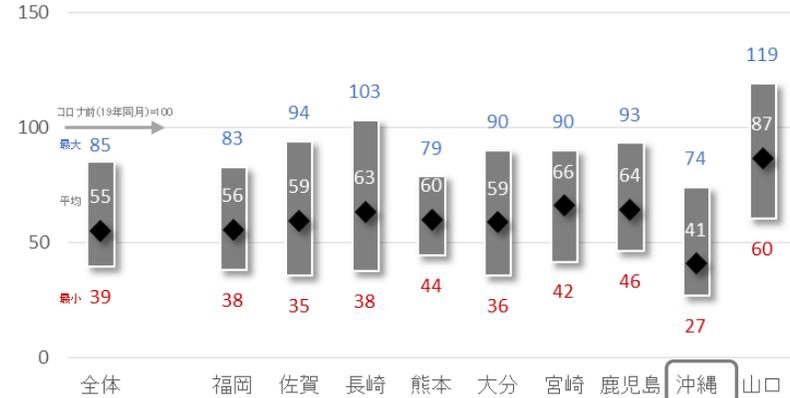
- ▶ 宿泊施設タイプでは、リゾートホテルとビジネスホテルがメイン。
- ▶ インバウンド需要及び県外からの旅行者減の影響を受け、前年を大きく下回る水準で推移。直近1年平均宿泊者数はコロナ前の4割程度と今回分析対象エリアの中で最も低い。

沖縄県 延宿泊数推移(千人泊)

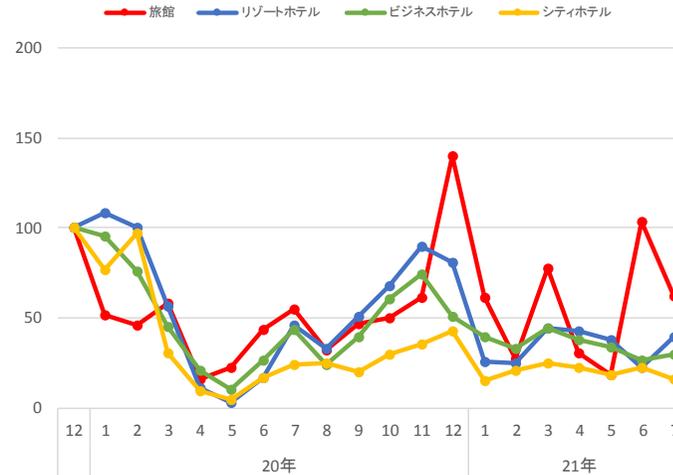


県別の延宿泊者数回復動向 ~ 全体

対象期間: 直近20/8-21/7



沖縄県 指数推移(19年同月=100)

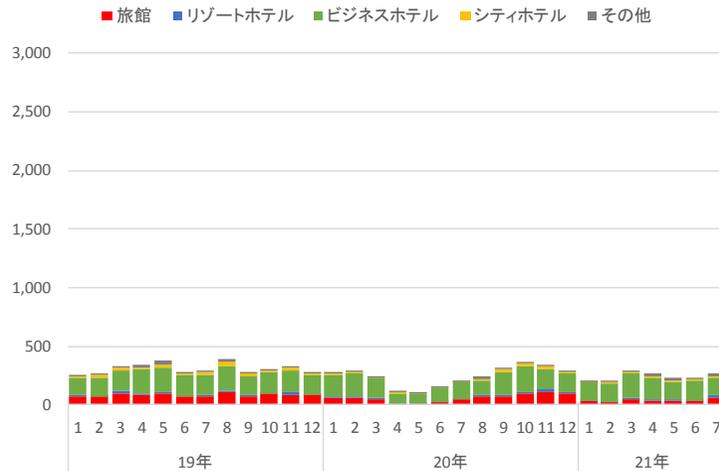


参考資料2 県別の宿泊動向データ

延宿泊数 月次推移 - 山口県

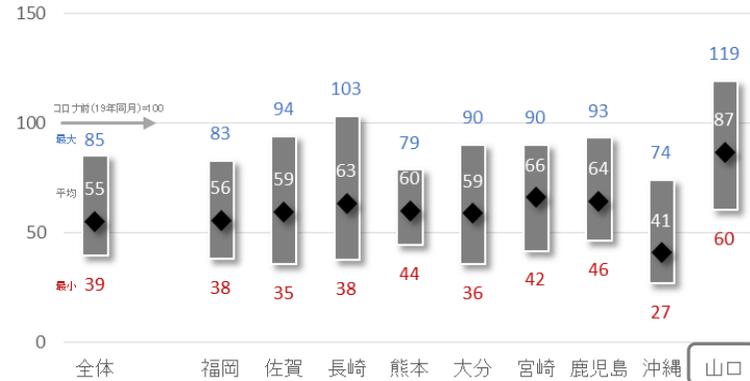
- ▶ 宿泊施設タイプでは、ビジネスホテルと旅館がメイン。
- ▶ ビジネスホテルタイプがコロナ前同月の水準を上回り堅調に推移。直近1年平均宿泊者数はコロナ前の9割弱と今回分析対象エリアの中で最も高い。

山口県 延宿泊数推移(千人泊)

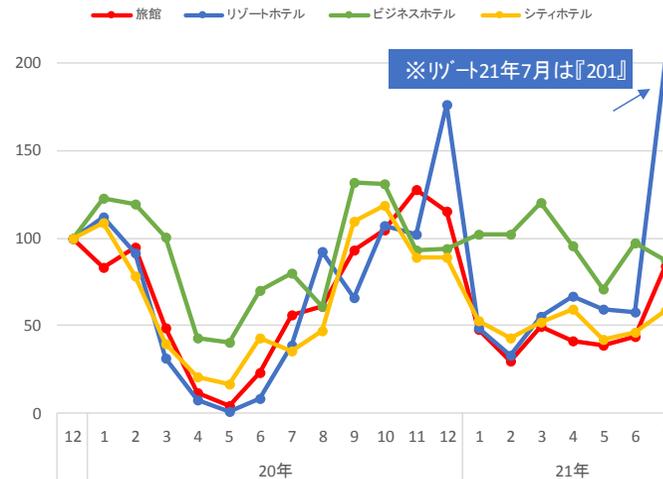


県別の延宿泊者数回復動向 ~ 全体

対象期間: 直近20/8-21/7



山口県 指数推移(19年同月=100)



参考資料 3 県別の支援施策詳細

参照： 各自治体公表資料等

参考資料3 県別の支援施策詳細（宿泊料割引制度）

観光客向けの割引制度

	山口県		福岡県	佐賀県	大分県	長崎県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
名称	旅々やまぐち県民割	山口県プレミアム宿泊券・プレミアムフェリー券	福岡の避暑（ひみつ）の旅	佐賀支え愛宿泊キャンペーン	新しいおいた旅割	ふるさとで“心呼吸”の旅キャンペーン	くまもと再発見の旅	ジモ・ミヤ・タビ キャンペーン	今こそ鹿児島の旅事業	
対象者	県内在住の観光客	観光客(県内外問わず)	県内在住の観光客	県内在住の観光客	県内在住の観光客	県内在住の観光客	県内在住の観光客	県内在住の観光客	県内在住の観光客	
内容	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行 未就学児に係る宿泊施設使用料の全額助成	前売り宿泊券・前売りフェリー券を割引価格で販売	前売り宿泊券・旅行券、コンビニ宿泊券などを割引価格で販売	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行	旅行商品・宿泊代金割引及び地域限定クーポンの発行	
割引額・率	【旅行・宿泊代金割引※】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円、 日帰り旅行は1人1泊あたり最大50%割引、上限5千円 ※税込4千円以上の旅行が対象 【地域クーポン券】 1人1泊2,000円分付与	【宿泊代金割引】 1冊額面5,000円を2,500円で販売、1人1泊あたり2万円まで(5000円券×4枚まで)利用可 【フェリー割引】 1冊額面4,000円を2,000円で販売	【宿泊代金割引】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円 【地域限定クーポン】 1人1泊最大5千円を助成	【宿泊代金割引】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円 【地域限定クーポン】 1人1泊2,000円(税込)未満はなし 1人1泊2,000円(税込)以上～4,999円未満は1,000円 1人1泊5,000円(税込)以上は2,000円	【旅行・宿泊代金割引】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円 日帰り旅行は1人1泊あたり2,500円 【地域クーポン】 1人1泊2,000円分付与	【宿泊代金割引】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円(4,000円以上の宿泊代金および旅行商品が対象) 【地域クーポン】 1人1泊2,000円分付与	【宿泊代金割引(平日)】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円 【宿泊代金割引(土日祝・指定日)】 1人1泊9,999円(税込)以下は1,500円割引 1人1泊10,000円(税込)以上は3,000円割引 【地域クーポン】 1人1泊2,000円分付与	【宿泊代金割引】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円 【地域クーポン】 1人1泊2,000円分付与 平日宿泊限定で2,000円分の地域クーポン上乗せ	【宿泊代金割引】 1人1泊最大50%割引、上限5,000円 【地域クーポン】 1人1泊2,000円分付与 (1人1泊当たり旅行代金10,500円以上の割引旅行商品購入者)	
対象期間	約5カ月間 (2021年7月30日～12月28日)	約7カ月間 (2021年7月15日～22年1月13日)	約5カ月間 (2021年7月26日～12月31日)	約7カ月間 (2021年6月7日～22年1月1日)	約9カ月間 (2021年3月20日～12月31日)	約6カ月間 (2021年7月1日～12月31日)	約6カ月間 (2021年7月3日～12月31日)	約6カ月間 (2021年6月21日～12月31日)	約6カ月間 (2021年7月5日～12月31日)	

OTAや旅行代理店が企画するもののみ

参考資料3 県別の支援施策詳細（設備投資補助制度）

設備投資に関する補助金等

	山口県	福岡県	佐賀県	大分県	長崎県	熊本県	宮崎県	鹿児島県			沖縄県	
名称	宿泊施設の高付加価値化等支援事業補助金	令和3年度福岡県宿泊施設受入対応強化補助金	佐賀県宿泊事業者による感染拡大防止策等支援補助金	令和3年度大分県宿泊施設受入環境整備緊急支援事業費補助金	長崎県宿泊施設感染拡大防止策等支援事業費補助金	熊本県宿泊事業者による感染防止対策等支援補助金	宮崎県宿泊事業者感染拡大防止対策に係る支援	宿泊施設感染防止対策等支援事業費補助金	宿泊施設受入環境整備支援事業費補助金	誘客取組等支援事業費補助金	観光バス・タクシー・レンタカー感染防止対策支援事業	おきなわ宿泊事業者感染防止対策等支援事業
対象者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者、福岡県の「感染防止宣言ステッカー」を掲示している施設	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者	県内の宿泊施設事業者、一般旅客自動車運送事業者	県内の家用自動車有償貸渡業を行う事業者、貸切バス・観光周遊バス、タクシー・レンタカーの車庫となる営業所等を置く民間事業者	県内宿泊施設事業者
対象事業	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	旅行者の受入対応強化のために実施する経費の補助	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組	コロナ収束後の需要回復に向けた受入環境整備（バリアフリー化）に係る資金の支援	誘客取組支援に係る費用、受入環境整備支援に係る費用の支援	感染症拡大防止のための物品購入費の支援	感染拡大防止策または新たな需要に対応するための取組
支援率	実施経費の3/4以内 (2020年度分は1/2以内)	実施経費の1/2	実施経費の3/4以内	実施経費の3/4以内	実施経費の3/4以内 (2020年度分は1/2以内)	実施経費の3/4以内	実施経費の3/4以内	実施経費の3/4以内	国や市町村の補助金等を活用していない場合：2/3 国や市町村の補助金等を活用している場合：1/3	実施経費の2/3以内	100%	実施経費の1/2
支援限度額	上限額750万円	【北九州市・福岡市】 客室数50室以下…1宿泊施設につき300万円 51室以上…1宿泊施設につき500万円 【政令都市以外】 50室以下…1宿泊施設につき450万円 (ワーケーション特例：600万円) 51室以上…1宿泊施設につき750万円	上限額750万円	上限額：750万円	750万円（国500万円＋県250万円） ※2020年度分のみ申請の場合は、500万円（国補助のみ）が上限	上限額：750万円	上限額：750万円	上限額：750万円	国や市町村の補助金等を活用していない場合：650万円 国や市町村の補助金等を活用している場合：250万円	上限額：100万円	バス1台あたり3万円、 タクシー・レンタカー1台あたり1万円、 ただし1営業所あたり50万円	上限額：500万円
対象期間	2020年5月14日～2022年1月14日	2021年10月1日～11月30日	2020年5月14日～2021年12月10日	2021年7月1日～12月28日	2020年5月14日～2022年1月21日	2020年5月14日～2022年1月31日	2020年5月14日～2021年12月31日	2020年5月14日～2021年12月28日の間に購入されたもの	2021年4月1日～2022年1月31日	2020年7月22日～2021年2月28日までに完了する取組	2020年4月1日（水）～11月下旬	2020年5月14日～2021年12月15日

作権(C)Development Bank of Japan Inc. 2021、(C)Kyushu Economic Research Center 2021
当資料は、株式会社日本政策投資銀行(DBJ)、株式会社日本経済研究所(JERI)により作成されたものです。

当資料は、貴社及び当行間で検討／議論を行うことを目的に貴社限りの資料として作成されたものであり、特定の取引等を勧誘するものではなく、当行がその提案内容の実現性を保証するものではありません。

当資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および当行が合理的と判断した一定の前提に基づき作成されておりますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。また、ここに記載されている内容は、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

当資料のご利用並びに取り組みの最終決定に際しましては、貴社ご自身のご判断でなされますよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などにご相談の上でお取り扱い下さいますようお願い致します。

当行の承諾なしに、本資料(添付資料を含む)の全部または一部を引用または複製することを禁じます。

(お問合せ先)

株式会社 日本政策投資銀行 九州支店
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-12-1
電話 : 092-741-7828